

国立大学法人
総合研究大学院大学

2023-2024
GUIDE BOOK

先端学術院

- 人類文化研究
- 国際日本研究
- 日本歴史研究
- 日本文学研究
- 日本語言語科学
- 情報学
- 統計科学
- 素粒子原子核
- 加速器科学
- 天文科学
- 核融合科学
- 宇宙科学
- 分子科学
- 物質構造科学
- 総合地球環境学
- 極域科学
- 基礎生物学
- 生理科学
- 遺伝学
- 統合進化科学

目次 Contents

概要

学長あいさつ	4
総合研究大学院大学の特徴	6
教育研究組織	7
組 織	8
総合研究大学院大学に参加する 大学共同利用機関	10
沿 革	12

先端学術院

人類文化研究コース	14
国際日本研究コース	15
日本歴史研究コース	16
日本文学研究コース	17
日本語言語科学コース	18
情報学コース	19
統計科学コース	20
素粒子原子核コース	21
加速器科学コース	22
天文学コース	23
核融合科学コース	24
宇宙科学コース	25
分子科学コース	26
物質構造科学コース	27
総合地球環境学コース	28
極域科学コース	29
基礎生物学コース	30
生理科学コース	31
遺伝学コース	32
統合進化科学コース	33

教育研究活動

総研大の教育プログラム	34
社会へ向けた取り組み	37
統合進化科学研究センター	39
教育企画開発センター	40
学術情報基盤センター	

DATA

データブック	42
アクセスマップ	51





総合研究大学院大学 SOKENDAI は、「大学共同利用機関」と呼ばれる国立研究機関を教育の場として、次世代を担う博士研究者を育成するために設立された大学です。1988年に国内初の大学院大学として開設されて以来、基礎学術の様々な分野に約2,400名の博士を送り出してきました。

全国に19ある大学共同利用機関は、大規模な実験施設や先端的な研究設備、貴重な研究資料を備え、第一線の研究者集団を擁しています。国内外の多くの研究者がその研究設備や資料を共同で利用し、機関の研究者と緊密な共同研究を行っており、大学共同利用機関は人文学から高エネルギー物理学に至る広範な学術分野を牽引する中核拠点となっています。SOKENDAIの最大の特色は、そのような世界トップクラスの基礎研究が行われている機関を大学院教育の場としていることです。

大学を取巻く社会の姿は、この20年の間に大きく変化しました。ICTの劇的な進歩に伴って、地域・年齢・性別・言語などの境界さらには時空を超えて膨大な情報が行き交い、社会が向かっていく方向として仮想空間と現実空間が融合した新たな姿が提示されています。一方で現実には目を向けると、人類社会は未曾有の課題に直面しているように見えます。誰もしが、10年後、20年後の人類社会の姿を想像することに困難さを感じているのではないのでしょうか。

そのような状況の中で、大学が果たすべき役割とは何か。大学が培ってきた基礎学術・基礎研究の大切さは万人の認めるところですが、個々の研究者の純粋な好奇心に基づく知的活動の成果が人類全体の知として蓄積され、社会をよりよい方向に導いていくというほど、世の中のシナリオは単純ではなさそうです。そんな先の見えにくい時代だからこそ、社会はその未来を託すことのできる人材を必要としています。大学は学問の府としてその要請に応えねばなりません。



SOKENDAIは、2023年4月にこれまでの教育組織・教育課程を大きく再編し、先端学術院20コース体制となりました。新たな教育課程は、素粒子・物質・生命・宇宙・情報・歴史・文化の広範な学術領域をカバーする20のコースから成り、学生は自らが専門とする学問分野の基本的な知識と教養を修得しながら、その専門に囚われることなく、主体的に学修・研究活動を行えるようにデザインされています。ディプロマ・ポリシーに掲げた「専門力」「独創性」「学際性」「国際力」「倫理性」の5つの力量は、いかなる課題に直面しても、自立した研究者として果敢に立ち向かう博士人材を念頭に置いたものです。

SOKENDAIは、長期的な視点に立って真に人類社会に資する学術のあり方を見据え、社会の知的基盤を支える学術の継承・発展や高度な研究開発の担い手となり、新たな知的価値を生み出すことができる博士人材の育成を目指して、広く社会に貢献していく所存です。

2023年4月1日

総合研究大学院大学長

永田 敬

ながた たかし 理学博士。1982年、東京大学大学院理学系研究科博士課程(化学専門課程)修了。東京大学理学部助手・講師・助教授、東京大学教養学部助教授、分子科学研究所 助教授、東京大学大学院総合文化研究科 教授、東京大学副学長、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構研究開発部 教授・主幹を歴任。2017年より総合研究大学院大学 理事・副学長を経て、2023年4月より現職。

創設の趣旨

総合研究大学院大学は、大学共同利用機関等との緊密な関係及び協力の下に、世界最高水準の国際的な大学院大学として学術の理論及び応用を教育研究して、文化の創造と発展に貢献することを理念に、1988年に我が国最初の独立大学院大学として創設されました。

この理念に基づき基礎学術分野において国際的に通用する高度の研究的資質を持つ広い視野を備えた研究者の育成を目的とし、学融合により従来の学問分野の枠を越えた国際的な学術研究の推進並びに学際的で先導的な学問分野の開拓を目指します。

大学共同利用機関等について

大学共同利用機関等の研究機関(基盤機関)は、当該分野の研究者コミュニティの要望をふまえて設置された共同利用・共同研究の中核拠点として、個々の大学では整備できない大規模な施設・設備、大量のデータや貴重な資料等の研究資源を全国の大学の研究者に提供するとともに、国内外の研究者との多彩な共同研究を通じて、我が国の先端学術を索引する研究拠点の役割を担っています。

総研大は、そのような基盤機関の優れた研究環境を教育の場として、各研究分野の豊富な研究者集団を教授陣とし、高度な専門教育と研究指導を行っています。

先端学術院

総合研究大学院大学は、大学共同利用機関等世界トップクラスの研究機関を教育の現場として、高い専門性を持った博士人材を育成してきました。

一方で、刻々と変化する学術分野の動向や社会の要請を踏まえ、複合的・融合的な課題に取り組む研究者人材を育成していくには、高度に専門的なリソースを、分野を超えて柔軟に活用できる体制が必要です。

そのため、総研大はこれまでの教育体制を再編し、2023年4月1日、先端学術院を設置しました。

同時に、新たに国立国語研究所及び総合地球環境学研究所を、本学の基盤機関に迎え、教育環境の更なる充実を図りました。

先端学術院では、基盤機関に支えられた20コースが設置されます。これにより、学問分野の垣根を超え、基盤機関の多彩な教育リソースを全学でより柔軟に活用できる教育環境を提供します。

20 コース

人類文化研究

国際日本研究

日本歴史研究

日本文学研究

日本語言語科学

情報学

統計科学

素粒子原子核

加速器科学

天文科学

核融合科学

宇宙科学

分子科学

物質構造科学

総合地球環境学

極域科学







基礎生物学

生理科学

遺伝学

統合進化科学

先端学術院が基盤とする研究機関

	国立民族学博物館 National Museum of Ethnology
	国際日本文化研究センター International Research Center for Japanese Studies
	国立歴史民俗博物館 National Museum of Japanese History
	国文学研究資料館 National Institute of Japanese Literature
	国立国語研究所 National Institute for Japanese Language and Linguistics
	国立情報学研究所 National Institute of Informatics
	統計数理研究所 The Institute of Statistical Mathematics
	素粒子原子核研究所 Institute of Particle and Nuclear Studies
	加速器研究施設・共通基盤研究施設 Accelerator Laboratory / Applied Research Laboratory
	国立天文台 National Astronomical Observatory of Japan
	核融合科学研究所 National Institute for Fusion Science
	宇宙科学研究所 Institute of Space and Astronautical Science
	分子科学研究所 Institute for Molecular Science
	物質構造科学研究所 Institute of Materials Structure Science
	総合地球環境学研究所 Research Institute for Humanity and Nature
	国立極地研究所 National Institute of Polar Research
	基礎生物学研究所 National Institute for Basic Biology
	生理学研究所 National Institute for Physiological Sciences
	国立遺伝学研究所 National Institute of Genetics
	統合進化科学研究センター Research Center for Integrative Evolutionary Science

総研大の特徴

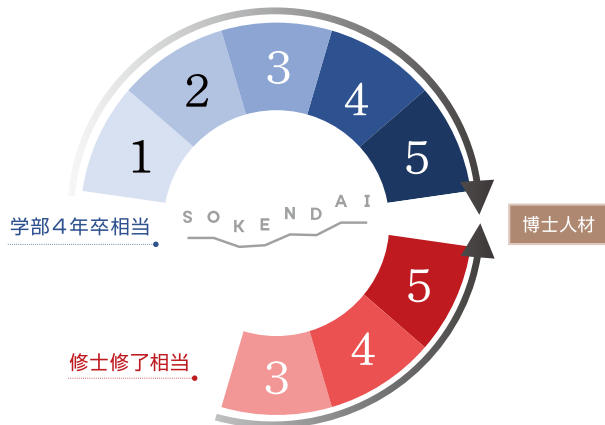
5つの力量 Features of SOKENDAI

総研大は、「自立した研究者」として必要な以下5つの力量を備えた博士人材の育成を行います。



教育課程 Doctoral program

5年一貫制博士課程と博士後期課程を併設しています。



充実した学生支援 Student support

経済的支援

リサーチ・アシスタント制度や授業料免除制度、SOKENDAI 特別研究員制度等により、学生の研究活動をより経済的にサポートします。

研究派遣支援

SOKENDAI 研究派遣プログラムや国際共同学位プログラムにより、国内外の長期共同研究等に取り組む学生をサポートします。

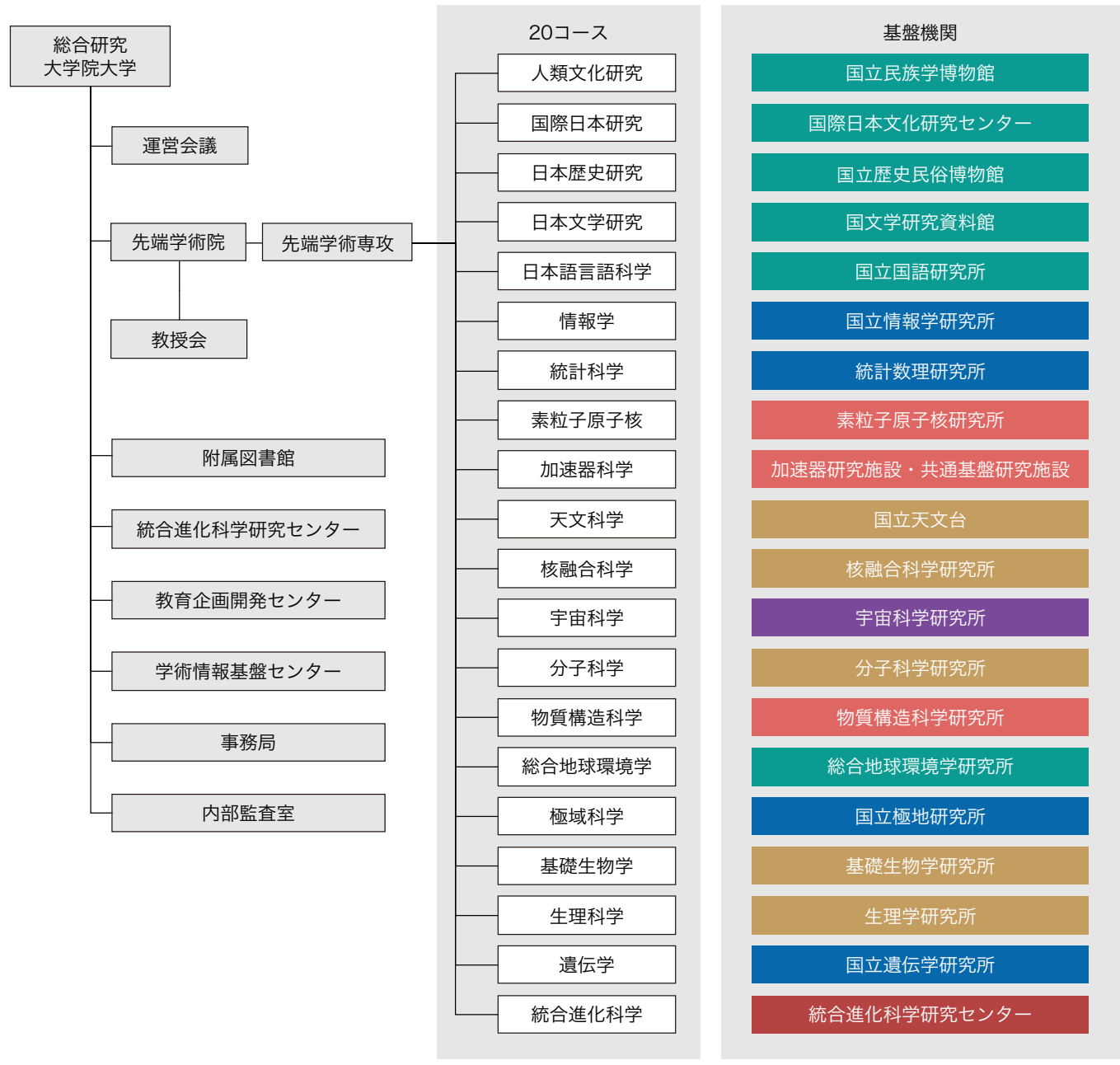
こちらのWebサイトをご覧ください ▶

<https://www.soken.ac.jp/features/>



▶ 教育研究組織

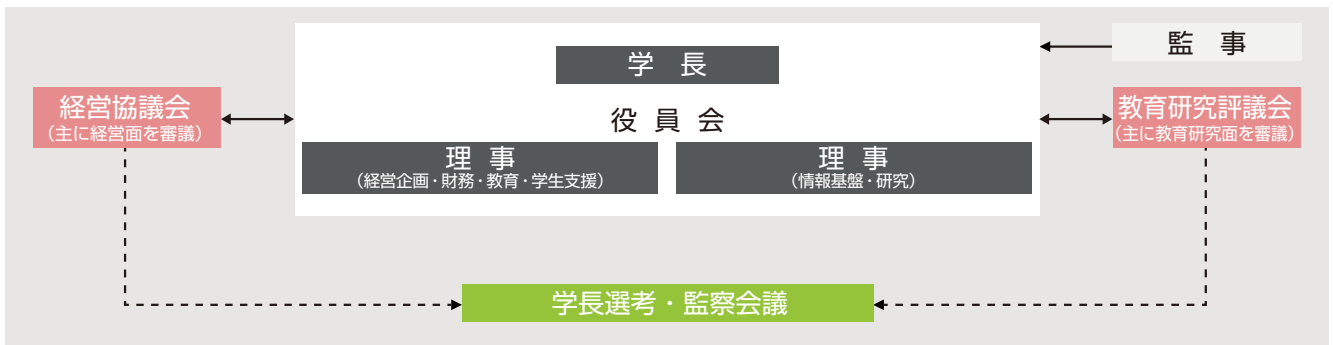
本学は、大学院の研究科に相当する教育研究上の基本組織として、先端学術院を置いています。先端学術院には、4つの大学共同利用機関法人及び国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構が設置する研究所等の研究環境を教育の場とした、多彩な専門分野を持つ20コースが展開しています。また、附属図書館、統合進化科学研究センター、教育企画開発センター及び学術情報基盤センターを設置しています。



- 人間文化研究機構
- 情報・システム研究機構
- 自然科学研究機構
- 宇宙航空研究開発機構
- 高エネルギー加速器研究機構
- 総研大本部（葉山キャンパス）

組織

Organization



役職員

2023年4月1日現在

学長	永田 敬
理事(経営企画・財務・教育・学生支援)	山本 智
理事(情報基盤・研究)	蟻川謙太郎
監事(事業)	岡村 定矩
監事(財務)	稲垣 正人
	(以上、法人役員)
副学長	山本 智
執行役	道園真一郎
学長補佐	久留島典子

■先端学術院

先端学術院長	榊原 悟
人類文化研究コース長	南 真木人
国際日本研究コース長	磯田 道史
日本歴史研究コース長	松木 武彦
日本文学研究コース長	齋藤真麻理
日本語言語科学コース長	松本 曜
情報学コース長	山田 誠二
統計科学コース長	藤澤 洋徳
素粒子原子核コース長	西村 淳
加速器科学コース長	紙谷 琢哉
天文科学コース長	関井 隆
核融合科学コース長	榊原 悟
宇宙科学コース長	堂谷 忠靖
分子科学コース長	横山 利彦
物質構造科学コース長	瀬戸 秀紀
総合地球環境学コース長	陀安 一郎
極域科学コース長	平譚 亨
基礎生物学コース長	新美 輝幸
生理科学コース長	古瀬 幹夫
遺伝学コース長	岩里 琢治
統合進化科学コース長	沓掛 展之

■附属図書館

館長	蟻川謙太郎
副館長	柳生 修二

■統合進化科学研究センター

センター長	印南 秀樹
-------	-------

■教育企画開発センター

センター長	山本 智
-------	------

■学術情報基盤センター

センター長	蟻川謙太郎
-------	-------

■事務局

事務局長	鎌塚 聡
総合企画課長	岡田 真季
総務課長	堀内 伸也
財務課長	飯塚 康
学務課長	梅野 健一

教育研究評議会

2023年4月1日現在

学長	永田 敬	加速器科学コース長	紙谷 琢哉
理事(経営企画・財務・教育・学生支援)・副学長	山本 智	天文科学コース長	関井 隆
理事(情報基盤・研究)	蟻川謙太郎	宇宙科学コース長	堂谷 忠靖
先端学術院長・核融合科学コース長	榊原 悟	分子科学コース長	横山 利彦
人類文化研究コース長	南 真木人	物質構造科学コース長	瀬戸 秀紀
国際日本研究コース長	磯田 道史	総合地球環境学コース長	陀安 一郎
日本歴史研究コース長	松木 武彦	極域科学コース長	平譚 享
日本文学研究コース長	齋藤真麻理	基礎生物学コース長	新美 輝幸
日本語言語科学コース長	松本 曜	生理科学コース長	古瀬 幹夫
情報学コース長	山田 誠二	遺伝学コース長	岩里 琢治
統計科学コース長	藤澤 洋徳	統合進化科学コース長	杵掛 展之
素粒子原子核コース長	西村 淳		

経営協議会

2023年4月1日現在

学長	永田 敬	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 機構長	喜連川 優
理事(経営企画・財務・教育・学生支援)・副学長	山本 智	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構 機構長	山内 正則
理事(情報基盤・研究)	蟻川 謙太郎	公立大学法人国際教養大学 理事長兼学長	モンテ・カセム
日本文学研究コース 教授		公立大学法人秋田県立大学 理事長兼学長	福田 裕穂
人間文化研究機構国文学研究資料館 館長	渡部 泰明	国立研究開発法人海洋研究開発機構 理事長	大和 裕幸
分子科学コース 教授		株式会社住化技術情報センター 代表取締役社長	関根 千津
自然科学研究機構分子科学研究所 所長	渡辺 芳人		
物質構造科学コース 教授			
高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所 所長	小杉 信博		
遺伝学コース 教授			
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所 所長	花岡 文雄		
叡啓大学 学長	有信 睦弘		
花園大学 学長	磯田 文雄		
甲南大学文学部 教授	井野瀬 久美恵		
三菱地所株式会社 特別顧問	木村 恵司		
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 所長	國中 均		
大学共同利用機関法人自然科学研究機構 機構長	川合 真紀		
東日本旅客鉄道株式会社 社外取締役	天野 玲子		
大学共同利用機関法人人間文化研究機構 機構長	木部 暢子		

総合研究大学院大学に参加する大学共同利用機関

国立大学法人 総合研究大学院大学本部①

教育企画開発センター
学術情報基盤センター・附属図書館
〒240-0193
神奈川県三浦郡葉山町 湘南国際村
電話 046 (858) 1500 (代表)
<https://www.soken.ac.jp/>

統合進化科学研究センター 統合進化科学コース 電話 046 (858) 1577 (コース担当) <https://rcies.soken.ac.jp>

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立民族学博物館②

人類文化研究コース
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06 (6876) 2151 (代表)
電話 06 (6878) 8236 (コース担当)
<https://www.minpaku.ac.jp/>

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター③

国際日本研究コース
〒610-1192
京都府京都市西京区御陵大枝山町 3-2
電話 075 (335) 2222 (代表)
電話 075 (335) 2052 (コース担当)
<https://www.nichibun.ac.jp/>

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館④

日本歴史研究コース
〒285-8502 千葉県佐倉市城内町 117
電話 043 (486) 0123 (代表)
電話 043 (486) 6473 (コース担当)
<https://www.rekihaku.ac.jp/>

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館⑤

日本文学研究コース
〒190-0014 東京都立川市緑町 10-3
電話 050 (5533) 2900 (代表)
電話 050 (5533) 2915 (コース担当)
<https://www.nijl.ac.jp/>

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所⑥

日本語言語科学コース
〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2
電話 0570 (08) 8595 (ナビダイヤル)
042 (540) 4374 (コース担当)
<https://www.ninjal.ac.jp/>

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所⑦

総合地球環境学コース
〒603-8047
京都府京都市上賀茂本山 457 番地 4
電話 075 (707) 2100 (代表)
電話 075 (707) 2152 (コース担当)
<https://www.chikyuu.ac.jp/>

大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 分子科学研究所⑧

分子科学コース
<https://www.ims.ac.jp/>
〒444-8585
愛知県岡崎市明大寺町西郷中 38
電話 0564 (55) 7000 (代表)
電話 0564 (55) 7139 (コース担当)

大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 基礎生物学研究所⑨

基礎生物学コース
<https://www.nibb.ac.jp/>
〒444-8585
愛知県岡崎市明大寺町西郷中 38
電話 0564 (55) 7000 (代表)
電話 0564 (55) 7139 (コース担当)

NIPS 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所⑩

生理科学コース
<https://www.nips.ac.jp/>
〒444-8585
愛知県岡崎市明大寺町西郷中 38
電話 0564 (55) 7000 (代表)
電話 0564 (55) 7139 (コース担当)

NAOJ 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台⑪

天文科学コース
〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
電話 0422 (34) 3600 (代表)
電話 0422 (34) 3659 (コース担当)
<https://www.nao.ac.jp/>

国立天文台 水沢VLBI観測所⑫

〒023-0861 岩手県奥州市水沢星ガ丘町 2-12
電話 0197 (22) 7111 (代表)

国立天文台 野辺山宇宙電波観測所⑬

〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山 462-2
電話 0267 (98) 4300 (代表)

国立天文台 ハワイ観測所⑭

650 North A'ohoku Place, Hilo, Hawaii
96720 U.S.A.
電話 1-808-934-7788 (代表)

国立天文台 チリ観測所⑮

Los Abedules 3085, Oficina 701, Vitacura,
Santiago, CHILE
電話 56-2-2656-9253 (代表)

大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 核融合科学研究所⑯

核融合科学コース
〒509-5292 岐阜県土岐市下石町 322-6
電話 0572 (58) 2222 (代表)
電話 0572 (58) 2042 (コース担当)
<https://www.nifs.ac.jp/>

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所⑰

宇宙科学コース
〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台 3-1-1
電話 042 (759) 8012 (コース担当)
<https://www.isas.jaxa.jp/>

大学共同利用機関法人⑱ 高エネルギー加速器研究機構 (つくばキャンパス)

加速器研究施設・共通基盤研究施設
加速器科学コース
<https://www2.kek.jp/accl/>
<https://www2.kek.jp/ar/>

物質構造科学研究所
物質構造科学コース
<https://www2.kek.jp/imss/>

素粒子原子核研究所
素粒子原子核コース
<https://www2.kek.jp/ipns/ja/>

〒305-0801 茨城県つくば市大穂 1-1
電話 029 (864) 1171 (代表)
電話 029 (864) 5128 (コース担当)
<http://www.kek.jp/>

東海キャンパス⑲

〒319-1106 茨城県那珂郡東海村大字白方 203-1

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所⑳

統計科学コース
〒190-8562 東京都立川市緑町 10-3
電話 050 (5533) 8500 (代表)
電話 050 (5533) 8514 (コース担当)
<https://www.ism.ac.jp/>

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所㉑

極域科学コース
〒190-8518 東京都立川市緑町 10-3
電話 042 (512) 0608 (代表)
電話 042 (512) 0612 (コース担当)
<https://www.nipr.ac.jp/>

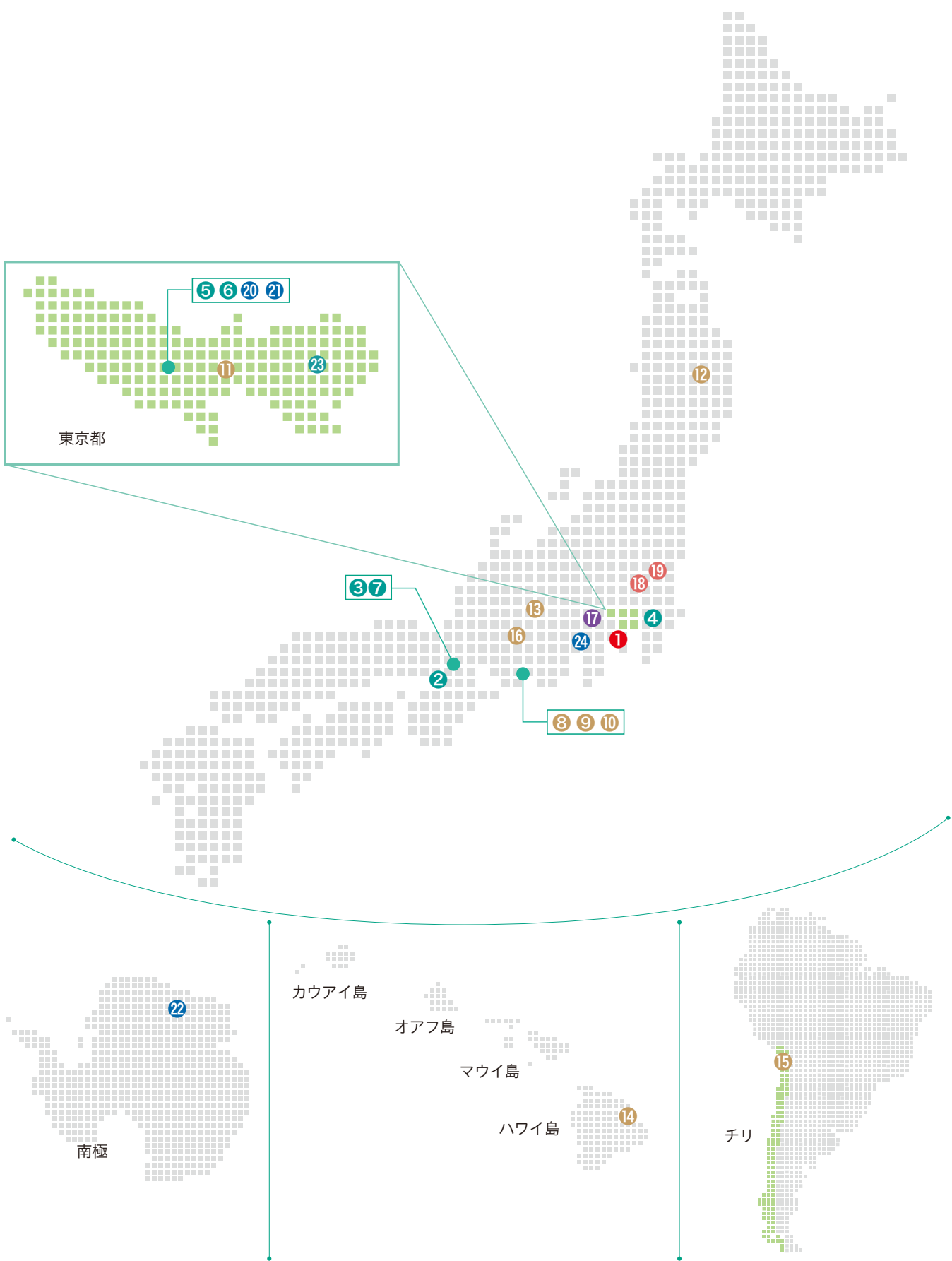
南極昭和基地㉑

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所㉒

情報学コース
〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2
学術総合センター
電話 03 (4212) 2110 (コース担当)
<https://www.nii.ac.jp/>

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所㉓

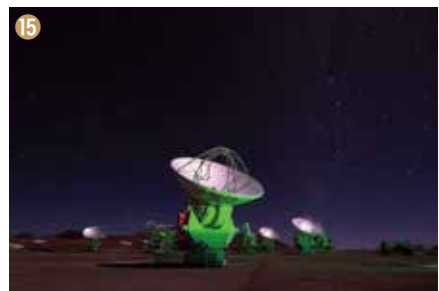
遺伝学コース
〒411-8540 静岡県三島市谷田 1111
電話 055 (981) 6707 (代表)
電話 055 (981) 6720 (コース担当)
<https://www.nig.ac.jp/>



(C) NIPR



(C) NAOJ



(C) NAOJ

沿革 — History —

1982
|
2023

概要

1982(昭和57)年6月
国立大学共同利用機関所長懇談会が「国立大学共同利用機関における大学院の設置について」を要望

1986(昭和61)年4月
国立大学共同利用機関所長懇談会が「大学院問題に関するワーキング・グループ」での検討結果に基づき「総合研究大学院大学の基本構想について」を取りまとめ
岡崎国立共同研究機構に総合研究大学院創設準備調査室及び同創設準備調査委員会を設置

1987(昭和62)年3月
総合研究大学院創設準備調査委員会が「総合研究大学院の基本構想」を取りまとめ
5月
岡崎国立共同研究機構に総合研究大学院創設準備室及び同創設準備委員会を設置
7月
総合研究大学院創設準備委員会が「総合研究大学院大学(仮称)の創設準備について—中間まとめ—」を取りまとめ

1988(昭和63)年4月
岡崎国立共同研究機構に総合研究大学院大学創設準備室及び同創設準備委員会を設置
5月
本学の設置を規定した「国立学校設置法の一部を改正する法律(昭和63年法律第67号)」公布、施行
9月
総合研究大学院大学創設準備委員会が「総合研究大学院大学の創設準備について」を取りまとめ



総合研究大学院大学 開学
1988. 10. 1
東京工業大学長津田キャンパスに間借りした部屋に総研大の看板をかける長倉三郎初代学長。

総合研究大学院大学開学
本部は東京工業大学長津田キャンパス内に設置

- 数物科学研究科
 - ・統計科学専攻
 - ・加速器科学専攻
 - ・放射光科学専攻
 - ・構造分子科学専攻
 - ・機能分子科学専攻
 - 生命科学研究科
 - ・遺伝学専攻
 - ・分子生物機構論専攻
 - ・生理科学専攻
- (学生受入は平成元年4月)

初代学長に長倉三郎(理学博士)就任

1989(平成)年4月
文化科学研究科(地域文化学専攻、比較文化学専攻)を設置
3研究科学生受入

1991(平3)年4月
教育研究交流センター設置

1992(平4)年4月
文化科学研究科に国際日本研究専攻、数物科学研究科に天文科学専攻及び核融合科学専攻設置、学生受入

1993(平5)年4月
数物科学研究科に極域科学専攻設置、学生受入

1994(平6)年2月
神奈川県が斡旋により、三浦郡葉山町に本部用地(27,000㎡)を
榑三井不動産から寄附により取得

葉山キャンパスにおいて本部共通棟(4,205㎡)着工

3月
教育研究情報資料センター設置

1995(平7)年2月
4月
大学本部は葉山キャンパスに移転、本部共通棟 竣工
2代学長に廣田榮治(理学博士)就任

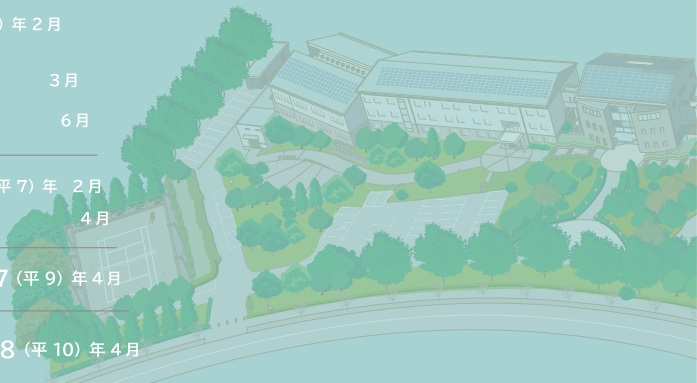
1997(平9)年4月
先導科学研究科(生命体科学専攻)を設置(学生受入は平成11年4月)

1998(平10)年4月
先導科学研究科に光科学専攻設置(学生受入は平成11年4月)
数物科学研究科放射光科学専攻を物質構造科学専攻に名称変更

9月
葉山キャンパスにおいて先導科学研究科棟(現・統合進化科学研究センター棟)(3,060㎡)着工

1999(平11)年4月
文化科学研究科に日本歴史研究専攻、数物科学研究科に素粒子原子核専攻設置・学生受入、
先導科学研究科学生受入

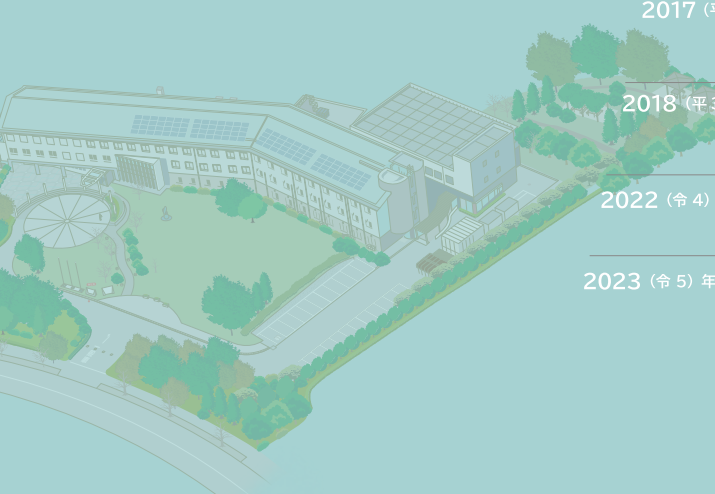
6月
先導科学研究科棟(現・統合進化科学研究センター棟)竣工



歴代学長

初代	長倉 三郎 (理学博士) 1988年10月 ~ 1995年3月
第2代	廣田 榮治 (理学博士) 1995年4月 ~ 2001年3月
第3代	小平 桂一 (理学博士) 2001年4月 ~ 2008年3月
第4代	高畑 尚之 (理学博士) 2008年4月 ~ 2014年3月
第5代	岡田 泰伸 (医学博士) 2014年4月 ~ 2017年3月
第6代	長谷川 真理子 (理学博士) 2017年4月 ~ 2023年3月
第7代	永田 敬 (理学博士) 2023年4月 ~ 現在

2001 (平13) 年4月	3代学長に小平桂一 (理学博士) 就任 文化科学研究科にメディア社会文化専攻設置、 学生受入
7月	葉山キャンパスにおいて図書館棟 (1,427 m ²) 着工
2002 (平14) 年2月	図書館棟竣工
4月	数物科学研究科に情報学専攻設置、学生受入
2003 (平15) 年4月	文化科学研究科に日本文学研究専攻、数物科学研究科 に宇宙科学専攻設置、学生受入
10月	「国立大学法人法 (2003年法律第112号)」公布、施行
2004 (平16) 年4月	国立大学法人総合研究大学院大学発足 学長に小平桂一 (理学博士) 就任 数物科学研究科を物理科学研究科 (構造分子科学専攻、 機能分子科学専攻、天文科学専攻、核融合科学専攻、宇 宙科学専攻)、高エネルギー加速器科学研究科 (加速器科 学専攻、物質構造科学専攻、素粒子原子核専攻)、複合科 学研究科 (統計科学専攻、極域科学専攻、情報学専攻) の 3研究科に改組、数物科学研究科を廃止 生命科学研究科を博士後期課程から5年一貫制博士課程に改 組、学生受入 教育研究交流センター及び教育研究情報資料センターを統合し、 葉山高等研究センターに改組
2005 (平17) 年4月	生命科学研究科分子生物機構論専攻を基礎生物学専攻に名称変更
2006 (平18) 年4月	物理科学研究科、高エネルギー加速器科学研究科、複合科学研究科 を博士後期課程から5年一貫制博士課程に改組、学生受入
2007 (平19) 年4月	先導科学研究科の生命体科学専攻、光科学専攻 (博士後期課程のみ) を、生命共生体進化学専攻 (5年一貫制博士課程) に改組、学生受入
2008 (平20) 年4月	4代学長に高畑尚之 (理学博士) 就任
2009 (平21) 年4月	メディア社会文化専攻の学生募集停止
2010 (平22) 年3月	葉山キャンパスにおいて学融合推進センター棟 (現・共通棟別館) (1,033 m ²) 着工
4月	葉山高等研究センターを学融合推進センターに名称変更
2011 (平23) 年1月	学融合推進センター棟 (現・共通棟別館) 竣工
2013 (平25) 年4月	情報基盤センターを設置
2014 (平26) 年4月	5代学長に岡田泰伸 (医学博士) 就任
2015 (平27) 年7月	情報基盤センター及び附属図書館を統合し、学術情報基盤センターを設置
2017 (平29) 年3月	メディア社会文化専攻を廃止 (専攻設置期間 : 2001年4月1日~2017年3月31日)
4月	6代学長に長谷川真理子 (理学博士) 就任
2018 (平30) 年3月	教育開発センターを設置
4月	学融合推進センターを廃止 東京ランチを設置 (東京都港区)
2022 (令4) 年3月	東京ランチを廃止
4月	統合進化科学研究センター設置
2023 (令5) 年4月	7代学長に永田敬 (理学博士) 就任 先端学術院先端学術専攻を設置、学生受入 教育開発センターを教育企画開発センターに改組 文化科学研究科、物理科学研究科、高エネルギー加速器科学研究科、複合科学研究科、生 命科学研究科、先導科学研究科の学生募集停止



人類文化研究コース

Anthropological Studies

国立民族学博物館

National Museum of Ethnology

人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

本コースは国立民族学博物館が基盤機関となり、先史時代から現代まで人類が世界各地で形成してきた多様な文化に関する教育研究を行います。文化人類学・民族学とその関連分野の視点に立ち、特定の文化を記述分析する民族誌学的研究や、特定の観点から文化を比較する通文化的研究を指導します。学生はフィールド調査で得たデータ、基盤機関の標本、映像・音響、文献資料等を活用しながら博士論文の完成を目指します。

≫ 教育課程 博士後期課程

≫ 学 位 博士（文学）・博士（学術）

≫ 修了生の進路

- 大学・研究所における研究者、大学等高等教育機関において文化人類学等の教育・研究に携わる教員、博物館等における研究者
- これまでの修了生就職先：
大阪大学、立命館大学、東京外国語大学ほか



もと焼畑だった茶畑の茶摘み準備
(静岡市 2021年/川上香 撮影)



活発に議論する学生たち



2歳ラクダの毛刈り作業と焼印押し
(中国内モンゴル自治区アラシャー盟 2021年/ウエルゴ 撮影)

≫ コース長

南 真木人

本コースの特徴は、調査対象とする地域やテーマに関わらず、フィールドワークに基づいた民族誌的な記述の博士論文を作成することです。文化に関して幅広い関心をもつジェネラリストで、かつある地域やテーマのスペシャリストでもあることを目指してほしいと思います。そのために講義やゼミのみならず、博物館がもつ資料や多様な研究プロジェクト、研究集会、展示、講演会、公演会、映画会などを活用していただけます。



国立民族学博物館

- 〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10-1
- <https://www.minpaku.ac.jp/>



国際日本研究コース

Japanese Studies

国際日本文化研究センター

International Research Center for Japanese Studies

人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

人文科学・社会科学・自然科学にわたる国際的・学際的な日本研究 (Japanese Studies) をすすめるために、「教育・研究指導分野」としては、本コースの特色である全教員の指導による「国際日本研究コース」を設けています。授業科目としては、「日本研究基礎論」「学際研究論」「先端学術院特別研究」などを置き、国際的な観点から「日本研究」の理論的・方法的な指導を行っています。これらの研究と研究指導を推進することにより、創造的で高度な専門的視野と、幅広い学際性、複数の分野を横断しうる総合性を備えた研究者の育成を目指しています。

≫ 教育課程 博士後期課程

≫ 学 位 博士 (学術)

≫ 修了生の進路

- 企業、国立研究所等の人文科学・社会科学・自然科学等分野の研究者、大学等の人文科学・社会科学・自然科学系教員、企業等で最先端のプロジェクト型研究を遂行する研究者
- 大学・研究所における専門的歴史研究者、或いは大学等高等教育機関において日本文化・地域文化等の教育・研究に携わる教員、博物館等における研究者・学芸員
- 人文科学・社会科学・自然科学等の分野における民間及び官公庁の研究者 など
- 具体例

秋田大学・東京工業大学・京都大学・奈良女子大学・広島大学・高知女子大学・宮崎公立大学・ものづくり大学・大妻女子大学・中部大学・京都女子大学・京都精華大学・京都文教大学・種智院大学・同志社女子大学・東北師範大学・白鳳女子短期大学・国際日本文化研究センター・国立歴史民俗博物館・日本学術振興会外国人研究員・チュラロンコン大学・パジャジャラン大学・株式会社 IRIS・華東師範大学・帝京大学・九州大学・大阪大学・大阪公立大学・江蘇理工学院・国立屏東大学・北京語言大学・愛知淑徳大学・江西理工大学・青島大学・曲阜師範大学・上海大学・上海師範大学・長崎県教育委員会 等



国際日本文化研究センター図書館



大学院生の発表機会もある国際シンポジウム



大学院生の企画運営による院生プロジェクト報告会



日本における式典：婚礼と葬儀



寛永行幸図巻



都年中行事画帖

≫ コース長

磯田 道史

本コースに入学される皆さんは、指導教員のみならず、複数の教員からの指導のもとで、広い視野に立った研究能力を身に付けていくことが出来ます。各教員は専門分野のエキスパートでありながら、様々な研究分野を横断的に扱う能力を兼ね備えているからです。このような恵まれた国際的かつ学際的環境のもと、将来的に国内外の学会で活躍する研究者を育てることが本コースの使命と考えます。グローバルな視点に立った独創的な研究を志す方を歓迎します。



国際日本文化研究センター

● 〒610-1192

京都府京都市西京区御陵大枝山3丁目2番地

● <https://www.nichibun.ac.jp/ja/>

日本歴史研究コース

Japanese History

国立歴史民俗博物館

National Museum of Japanese History

人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

日本歴史研究コースでは、広義の日本歴史の分野に関して、広い視野及び国際的な通用性を兼ね備え、特定の専門分野について資料に基づいた高度な研究を行える研究者及び高い研究能力をもって社会に貢献できる人材の育成を目的とします。文献史学・考古学・民俗学・分析科学などの各専門家の指導と、基盤機関である国立歴史民俗博物館が保有する膨大な実物資料と多様な情報資料の活用によって、高度な総合的能力を持つ研究者の育成を目指します。

≫ 教育課程 博士後期課程

≫ 学 位 博士（文学）・博士（学術）

≫ 修了生の進路

- 大学、研究所における専門的歴史、民俗、考古等研究者、あるいは博物館等における研究者、学芸員等。



国立歴史民俗博物館の展示室を使った講義風景
(第1展示室「ナウマンゾウ」前での講義)
歴史・考古・民俗などについての約30万点の資料が収蔵されています



第2展示室「朱印船模型」前での講義

≫ コース長

松木 武彦

本コースでは、国立歴史民俗博物館（歴博）が所蔵する膨大な資料と最新の機器を活用した、博物館ならではの実践的な研究を進めることができます。また同時に、コースを構成する歴史・考古・民俗・分析・情報のもとより、さらに幅広く文理ほぼすべての学問領域をカバーする他の19コースとも連携し、宇宙と人類の壮大な歴史の中に自分の研究を位置づけることも夢ではありません。細かいことから大きなことまで、自分自身の関心と視点と方法で、トップを目指そう！



国立歴史民俗博物館

● 〒285-8502

千葉県佐倉市城内町 117

● <https://www.rekihaku.ac.jp/index.html>



日本文学研究コース

Japanese Literature

国文学研究資料館

National Institute of Japanese Literature

人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

日本文学研究コースでは、日本文学（国文学）等の学術コミュニティを主たるステークホルダーに位置づけ、日本文学研究の継承・発展を担う博士人材を育成し輩出することを、教育研究上の主たる目的とします。そのため本コースでは、包括的で深い専門知識に立脚しつつ、独創的な着想および学際的な視点から、周辺領域を含めた課題に取り組むことで、当該領域の研究に寄与し、社会に独自の貢献が出来る人物を育成します。

≫ 教育課程 博士後期課程

≫ 学 位 博士（文学）

≫ 修了生の進路

- 大学・研究機関における専門的日本文学研究者、或いは大学等高等教育機関において日本文学等の教育・研究に携わる教員、美術館・博物館における学芸員等。



国文学研究資料館書庫



閲覧室で所蔵資料を見ながら行う授業



院生図書室

≫ コース長

齋藤 真麻理

日本文学研究コースは、国文学研究資料館を基盤機関とし、日本文学の新たな発展を担う人材を養成します。具体的には、文化資源のうち文献を主とした一次資料を研究対象とし、専門的な調査技術と総合的な分析力・知識・技能等の修得を目指します。論理的な思考能力や文章表現力、独創的かつ学際的な視点を育むとともに、周辺領域の課題にも取り組み、国内外で活躍できる広い視野を持つ研究者を育成します。



国文学研究資料館

- 〒190-0014
- 東京都立川市緑町10-3
- <https://www.nijl.ac.jp/>

日本語言語科学コース

Japanese Language Sciences

国立国語研究所

National Institute for Japanese Language and Linguistics

人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

日本語をデータに基づいて客観的・定量的に分析することのできる次世代の研究者を養成します。そのために、国立国語研究所が蓄積した言語資源と研究ネットワークを活用し、従来の分析手法に比べて、理論・実験・フィールドワーク・社会調査・コンピュータシミュレーション等の新しい手法によって言語分析をおこなう能力・技能を涵養します。

≫ 教育課程 博士後期課程

≫ 学 位 博士(文学)・博士(学術)

≫ 想定される修了生の進路

- 日本語学・日本語教育学などの領域において日本語情報処理やデータサイエンスなどを活用した研究を行える大学教員・研究者、言語学的専門知識を活かして情報処理産業で活躍するデータサイエンティスト・自然言語処理技術者、言語学的専門知識を有する学芸員・アーキビスト・地方公共団体職員、国内外において日本語教育の指導にあたる研究・教育者、国語・日本語に関するデジタル教材開発者など。



使役交替言語地図

まとめて検索KOTONOHA



「じぢずづ」の仮名遣いを記した本
(1695 [元禄8] 年刊)

≫ コース長

松本 曜

日本語言語科学コースは、言語を研究対象とする日本の大学院プログラムの中で特筆すべき特徴を持っています。それは、文化科学領域のみならず数理情報領域におよぶ幅広い研究活動が行われている環境の中で、言語についての研究ができる点です。コース名が、日本語学でも言語学でもない、「日本語言語科学」であるゆえんです。このような環境の中で、独創的な言語研究にチャレンジする若き研究者を、日本語言語科学コースはお待ちしています。



国立国語研究所

- 〒190-8561
東京都立川市緑町10-2
- <https://www.ninjal.ac.jp/>



情報学コース

Informatics

国立情報学研究所

National Institute of Informatics

情報・システム研究機構

Research Organization of Information and Systems

情報学を極める—未知への挑戦

情報学は、計算機科学、情報工学にとどまらず、データサイエンティストに必要とされる人工知能、数理、加えて人間や社会を対象とする人文情報学、社会情報学までをカバーする総合的な学問分野です。本コースでは、情報学の基礎・応用・実用のさまざまなフェーズの研究・教育を行うことで、秀でた研究者を育成するとともに、高度な専門職業人を養成し、世界的に活躍できるリーダーを育てることを目的とします。

≫ 教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

≫ 学 位 博士（情報学）・博士（学術）

≫ 修了生の進路

- 国内外の大学、公的研究機関、企業における情報学（情報技術 IT の基礎理論・応用、AI・データサイエンスの基礎・応用など）分野に従事する研究者・技術者。
- 大学等の情報学に関する教員。
- 企業・大学等における情報学に関するプロジェクト型研究を遂行できる研究者・技術者。



16階ラウンジにおける交流の様子



オープンハウスでのポスター展示



所内研究用に整備した高性能クラウド

≫ コース長

山田 誠二

情報学は、情報工学・情報科学にとどまらず、データサイエンティストに必要とされる人工知能、数理、そして人間や社会を対象とする人文情報学、社会情報学までをカバーする総合的な学問分野です。本コースでは、情報学の基礎・応用・実用のさまざまなフェーズの研究・教育を行うことで、秀でた研究者・エンジニアを育成するとともに、高度な専門職業人を養成し、世界的に活躍できるリーダーを育てることを目的とします。



国立情報学研究所

- 〒101-8430
東京都千代田区一ツ橋2-1-2
- <https://www.nii.ac.jp/>

統計科学コース

Statistical Science

統計数理研究所

The Institute of Statistical Mathematics

情報・システム研究機構

Research Organization of Information and Systems

現実社会からの情報ないし知識の抽出を、データに基づいて実現するために、データ収集の設計、モデリング、推論、予測およびこれらの基礎、数理、応用に係わる教育研究を行い、複雑に相互に絡み合うさまざまな重要課題の解決に貢献する創造性豊かな研究能力を備えた人材の育成を目的とします。

≫ 教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

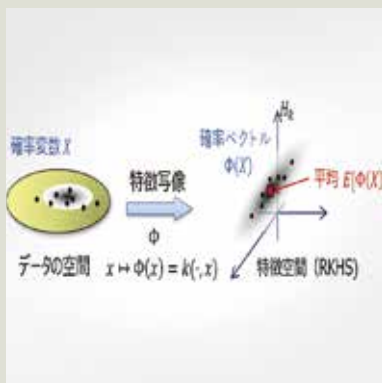
≫ 学 位 博士（統計科学）・博士（学術）

≫ 修了生の進路

- 国内や海外の大学等、企業や国立の研究所等、IT・製造業・金融業・製薬業などの企業、など



統計数理研究所図書館



カーネル法の図

≫ コース長

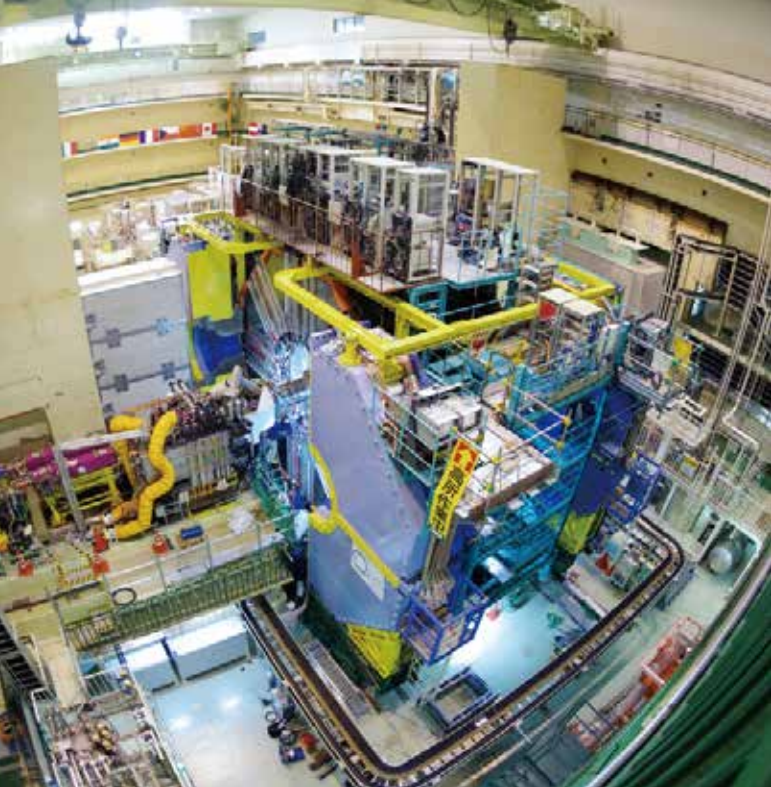
藤澤 洋徳

統計数理研究所では、最先端の研究にスムーズに触れられる環境が整っています。様々なプロジェクトが動いており、大学院生でも興味のあるプロジェクトに参画することが可能です。研究指導においては、主任指導教員だけでなく、副指導教員も用意されており、視野の広い研究者になるための体制が整えられています。また、基礎力を身に付けるための、様々な科目が用意されています。日本において、統計科学を学んで研究する上で、これ以上ない環境と言えましょう。



統計数理研究所

- 〒190-8562
東京都立川市緑町10-3
- <https://www.ism.ac.jp/>



素粒子原子核コース

Particle and Nuclear Physics

素粒子原子核研究所

Institute of Particle and Nuclear Studies

高エネルギー加速器研究機構

High Energy Accelerator Research Organization

宇宙と物質の謎にせまる

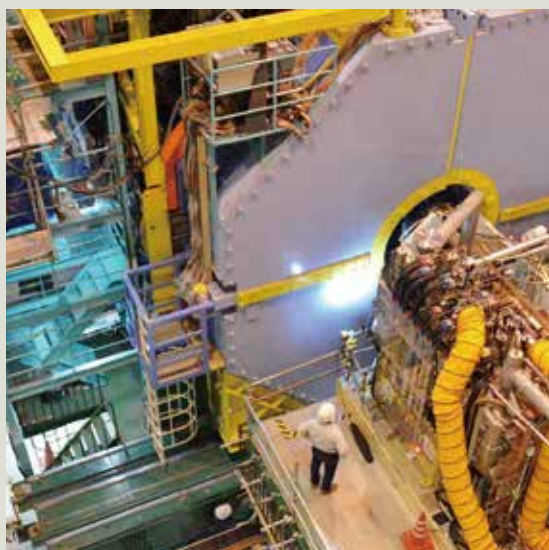
本コースでは、高エネルギー加速器研究機構 (KEK)、素粒子原子核研究所の理論グループ又は実験グループに所属し、総研大教員を併任するスタッフによる講義から研究指導に至る充実した大学院教育を受けることができます。これにより、素粒子・原子核・宇宙に関連する分野の更なる発展に貢献できる人材を育てることが、本コースの研究教育上の目的です。当該分野の国際的な研究拠点であるKEKの恵まれた環境を活かして、広い視野、高い専門性と国際力をもって第一線で活躍できる研究者を養成します。

≫ 教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

≫ 学 位 博士(学術)・博士(理学)

≫ 修了生の進路

- 素粒子・原子核・宇宙関連の研究者・大学教員、企業や国立研究所等で最先端のプロジェクト型研究を遂行する研究者・技術者、原子力、放射線、情報処理、電気、電子、通信等の分野における民間及び官公庁の研究者・技術者など。



40倍のルミノシティ増強を目指して運転を開始したSuperKEKB加速器と Belle II 測定器 ©KEK



T2K前置検出器 ©KEK/T2K



理論グループに所属する総研大生が指導教員と議論の様子。©KEK

≫ コース長

西村 淳

KEKは、欧州のCERNなどと並ぶ有数の研究機関として、素粒子原子核物理研究のフロンティアを切り拓いてきました。KEKの理論もしくは実験の研究グループに所属する総研大生は、最先端の研究に触れながら、博士の学位を取得するまで、研究者としての能力を着実に身につけられます。修了者の中には、既に国内外で活躍している研究者が多数おります。他には類を見ない研究教育環境で、皆さんも研究者を目指しませんか。



素粒子原子核研究所

● 〒305-0801

茨城県つくば市大穂1-1

● <https://www2.kek.jp/ipns/ja/>



加速器科学コース

Accelerator Science

加速器研究施設・共通基盤研究施設

Accelerator Laboratory / Applied Research Laboratory

高エネルギー加速器研究機構

High Energy Accelerator Research Organization

究極の物質探求装置「加速器」を科学する

高エネルギー加速器は、最も単純な素粒子・原子核から原子・分子そして複雑精妙な生命体に至る、自然界の各階層のさまざまな構成要素を探究する強力な道具です。本コースでは、加速器性能の向上を通じた自然科学の推進を主目標に、加速器の原理研究や先端的加速器技術の開発など、理論・実験両面から加速器教育を実施します。あわせて、密接に関連する放射線科学、コンピュータ・サイエンス、超伝導技術、機械工学などの教育および研究を通じて、加速器科学の将来を中心的に担う人材の総合的育成を行います。

≫ 教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

≫ 学 位 博士(学術)・博士(理学)・博士(工学)

≫ 修了生の進路

- 国内外の加速器関連研究機関の研究者や民間企業の研究者

先端学術院



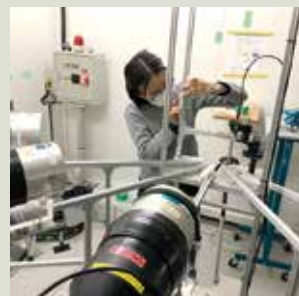
J-PARCニュートリノ実験施設の超伝導電磁石



高速ビームキッカーの組み立て作業の様子



フォトンファクトリー電子蓄積リングにおけるビームスタディの様子



光中性子測定のための検出器設置の様子

≫ コース長

紙谷 琢哉

加速器科学コースでは、身近に高エネルギー加速器研究機構の世界最先端の大型加速器が稼働しており、それを支える多様な科学技術分野における先進的な技術開発、研究が行われている環境で研究を進めることができます。また加速器に関する基本的な知識の学修や教育用小型加速器を用いた実習などの実践を経て、専門の分野における博士研究を進めます。他の人々と協働しつつも、自らの力で課題を見出し解決していく意欲のある方を歓迎いたします。



加速器研究施設・共通基盤研究施設

- 〒305-0801 茨城県つくば市大穂1-1
- <https://www2.kek.jp/accl/>
- <https://www2.kek.jp/arl/>



天文科学コース

Astronomical Science

国立天文台

National Astronomical Observatory of Japan

自然科学研究機構

National Institutes of Natural Sciences

世界最先端の観測装置やスーパーコンピュータを有する研究環境の下で、天文学および関連する分野の観測的・理論的、また装置開発に関わる研究を通じ、1) 世界第一線で活躍できる研究者、2) 先端技術の発展を担う専門家、3) 高度な専門知識を背景に科学の普及に努める人材の育成を目標とします。問題に取り組む強い意欲があり、基礎学力のみならず論理性、創造性など必要な素養を持つ学生を求めます。

≫ 教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

≫ 学 位 博士(学術)・博士(理学)・博士(工学)

≫ 修了生の進路

- 国内外の大学や研究機関における天文科学及びその関連分野の研究教育職員・研究職員、企業の技術者、サイエンスコミュニケーター



ALMA望遠鏡 Credit: X-CAM / ALMA (ESO/NAOJ/NRAO)



天文学専用スーパーコンピュータ「アテルイII」 Credit: NAOJ

≫ コース長

関井 隆

総合研究大学院大学天文科学コースでは、天文学研究に理論的に、観測的に、あるいは新しい観測機器の開発を通じて取り組んでいます。数多くのさまざまな分野の研究者が集まる国立天文台を舞台に、多くの大学院生が学び、研究しています。物理や数学が得意な人、プログラミングが好きな人、実際の宇宙を観ることに何よりも胸が踊る人、そしてモノを作るのに熱中できる人。その誰にも活躍の場があります。天文科学コースで学んでみませんか。



国立天文台

- 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
- <https://www.nao.ac.jp/>



核融合科学コース

Fusion Science

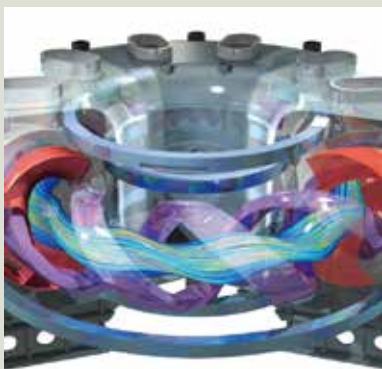
核融合科学研究所

National Institute for Fusion Science

自然科学研究機構

National Institutes of Natural Sciences

先端学術院



ジャイロ運動論粒子コードによる大型ヘリカル装置の炉心プラズマにおける微視的不安定性シミュレーション



LHDの第一原理乱流シミュレーション

>> コース長

榊原 悟

核融合科学コースでは、核融合炉の早期実現に向けて、プラズマ物理学の理解や計測機器開発、制御技術、炉で求められる耐熱性、耐放射性に優れた材料の開発研究や超伝導技術の向上など、未踏の研究課題に積極的に取り組む学生を求めています。核融合科学研究を軸として自己のスキルを磨き、どの研究分野にも通用する総合理工学者の育成を目指しています。学生の皆さんのチャレンジを期待しています。

地上に太陽を

核融合エネルギーの実現のため、プラズマ物理学に基づく高温プラズマの閉じ込め、安定性等に関わる物理実験及び理論的研究、これら物理現象解明のためのシミュレーション科学研究、加熱、計測、超伝導及び材料技術を含む核融合炉技術全般に関わる要素研究において、国際的にリーダーシップを発揮できる質の高い研究者及び高度な専門知識をもって社会に貢献する人材の育成を目的とします。

>> 教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

>> 学 位 博士(学術)・博士(理学)・博士(工学)

>> 修了生の進路

- 国立研究所等の核融合関連分野の技術者・研究者、大学等の核融合学(プラズマ実験、理論、材料工学や超伝導工学等)系教員、企業等で最先端のプロジェクト型研究を遂行する技術者・研究者



核融合科学研究所

● 〒509-5292

岐阜県土岐市下石町322-6

● <https://www.nifs.ac.jp/>



宇宙科学コース

Space and Astronautical Science

宇宙科学研究所

Institute of Space and Astronautical Science

宇宙航空研究開発機構

Japan Aerospace Exploration Agency

飛翔体で切り開く宇宙科学の最前線

本コースでは、宇宙技術の研究・開発を行う宇宙工学および宇宙物理学や太陽系科学を始めとする宇宙理学に関する分野横断的かつ包括的な教育と研究指導を行います。それにより、高い専門性と広い視野に加え国際的通用性を兼ね備えた、将来の宇宙科学および関連技術を担う研究者や宇宙開発利用全般を支える人材を養成します。

≫ 教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

≫ 学 位 博士(理学)・博士(工学)・博士(学術)

≫ 修了生の進路

● 大学、国立研究所等の宇宙科学(宇宙物理学、太陽系科学、宇宙工学)分野の教員・研究員、企業や国立研究所等の宇宙開発関連分野の技術者・研究者、企業等で最先端のプロジェクト型研究を遂行する技術者など。



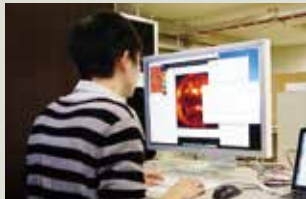
小惑星探査機「はやぶさ2」が、小惑星「リュウグウ」に人工クレーターを作り、そこにタッチダウンする想像図。©池下卓裕



宇宙の謎に挑むX線分光撮像衛星 XRISM ©JAXA



「射点に立つイプシロンロケット」 ©JAXA



人工衛星観測で得られたデータの解析



学位研究の実験風景



宇宙科学演習で、観測ロケット実験に参加

≫ コース長

堂谷 忠靖

本コースでは、宇宙科学および宇宙工学に関する世界的研究拠点という環境を活かし、世界をリードする研究者による高度な教育および研究指導を行ないます。ロケットから科学衛星や探査機、大気球までの幅広い分野をカバーし、大型プロジェクトに関わりながら、実践的な研究や研究開発を行うことができます。宇宙科学や宇宙工学に関する強い関心と意欲のある学生の志望を期待しています。



宇宙科学研究所

● 〒252-5210

神奈川県相模原市中央区由野台3-1-1

● <https://www.isas.jaxa.jp/>

分子科学コース

Molecular Science

分子科学研究所

Institute for Molecular Science

自然科学研究機構

National Institutes of Natural Sciences

本コースは、分子科学研究所（岡崎市）を基盤とし、物質の基本構成単位である分子に対する体系的理解を確立し物質が示す多種多様な現象を解き明かす次世代の研究者を育成します。高度な研究（実験、測定、理論等）を遂行し、研究結果を合理的に理解し、自由な着想から未踏の課題に挑戦し、新たな知的価値や普遍的な真理を生み出し、分子科学に立脚した人類の発展に貢献する人材の輩出を目指します。

≫ 教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

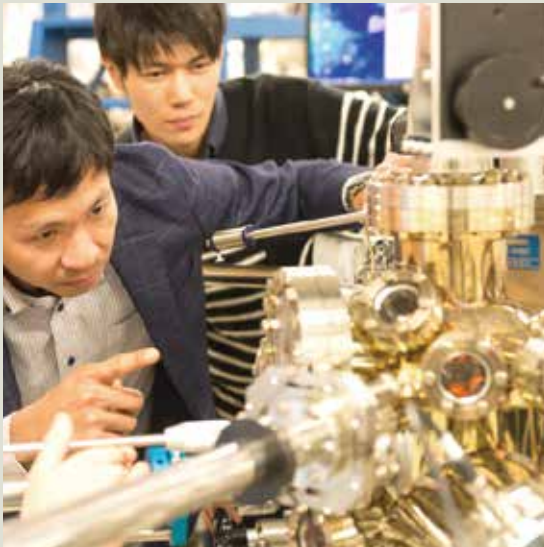
≫ 学 位 博士（理学）・博士（学術）

≫ 修了生の進路

- 大学や国公立研究所等における分子科学関連分野の研究者・教員、公的研究プロジェクトや民間研究所における先端的研究課題を遂行する研究者・技術者。



先端学術院



光電子分光法による電子状態測定



極端紫外光シンクロトロン放射光
研究施設 UVSOR-III



高速液体クロマトグラフィーによる
タンパク質の精製

≫ コース長

横山 利彦

化学と物理をつなぐ学際領域「分子科学」は、近年では化学・物理に留まらず、生物も研究対象として取り込み、その研究分野は大きく拡がりつつあります。本コースでは、分子と分子集合体が示す特異な構造・機能の観測と新たな観測手法の開発、実験・理論によるこれら要因の解明、新機能を有する分子と分子集合体の設計・合成といった観点で研究を進める教員から分子科学の最先端を学べます。学問の最先端に身を置くことで、皆さんが将来大きく羽ばたくための基礎を身につけてもらえると期待します。



分子科学研究所

● 〒444-8585

愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38番地

● <https://www.ims.ac.jp/>



物質構造科学コース

Materials Structure Science

物質構造科学研究所

Institute of Materials Structure Science

高エネルギー加速器研究機構

High Energy Accelerator Research Organization

放射光・中性子・ミュオン・低速陽電子が拓くナノの世界

本コースでは、加速器から得られる放射光、中性子、ミュオン、低速陽電子の4つの量子ビームを利用した最先端の物質科学・生命科学に関する講義や研究指導を受けることができます。物理学、化学、生命科学、医学応用、環境科学、地球物理学などの広範囲な分野の研究に加え、量子ビームの発生・利用技術の高度化により、物質科学の新たなフロンティアの開拓に寄与することもできます。複数の量子ビームを利用可能な恵まれた環境で、広い視野と専門性を持ち、国際的に活躍できる研究者を養成します。

≫ 教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

≫ 学 位 博士(学術)・博士(理学)・博士(工学)

≫ 修了生の進路

● 国内外の量子ビーム施設における技術者・研究者、大学・公的研究機関等の物質・生命科学系教員・研究者、企業等で最先端のプロジェクト型研究を遂行・主導する技術者・研究者など。



放射光を用いた生体高分子のX線結晶構造解析実験



放射光実験施設 Photon Factory (PF) ©IMSS



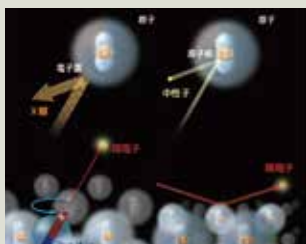
PF 実験ホール ©IMSS



物質・生命科学実験施設 (MLF) の実験ホール ©IMSS



MLFのミュオンD1実験装置 ©IMSS



4種の量子ビーム

≫ コース長

瀬戸 秀紀

物質構造科学コースは、大型加速器から得られる放射光、中性子、ミュオン、低速陽電子などの量子ビームを利用した最先端の科学研究を行っています。その中で、基礎科学から産業応用に至る広範囲な研究分野において、物質の構造と機能の解明という基礎的・先端的研究を切り拓く研究者を育成しています。本コースの修了生は国内外の量子ビーム施設の中核的な研究者として活躍するだけでなく、量子ビームを利用した研究を推進するパワーユーザーとなるのが期待されています。



物質構造科学研究所

● 〒305-0801

茨城県つくば市大穂1-1

● <https://www2.kek.jp/imss/>



総合地球環境学コース

Global Environmental Studies

総合地球環境学研究所

Research Institute for Humanity and Nature

人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

先端学術院



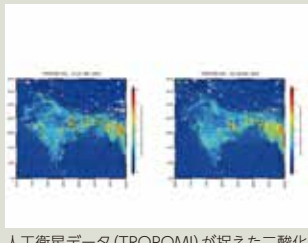
研究室の枠組みにとらわれず議論し、互いに切磋琢磨できる研究環境を反映させたプロジェクト研究室



国内有数の安定同位体の分析研究環境



地球研・Future Earth アジア地域センター共催によるTD研修(TERRA School 2019)



人工衛星データ(TROPOMI)が捉えた二酸化窒素濃度の変化。(左)ロックダウンの直前、(右)ロックダウン直後(Aakashプロジェクト、実施年度：2020-2024)



沖縄県八重瀬町での「みずのわ教室」。地域の子供たちと一緒に湧き水調査(LINKAGEプロジェクト、実施年度：2022-2026)



持続可能な窒素利用に向けて(Sustain-N-ableプロジェクト、実施年度：2022-2027)

》コース長

陀安 一郎

総合地球環境学コースは、2023年度より新たに総研大に加わったコースです。分野横断型の学際研究を行なっている地球研の研究プロジェクトを活かした研究を行なっただけたり、各教員の専門分野を活かした地球環境に関する研究を行なっただけたり、いろいろな可能性があります。総合地球環境学に関する幅広い講義やセミナーに参加しつつ、独自の視点を持った研究を行いたいと考える皆さんの積極的な応募を期待しています。

総合地球環境学コースは、地球研が実施する分野横断的な学際研究であり、さらに社会と連携・協働した課題解決型の超学際研究を含んだ国際研究プロジェクトを基盤としています。自らの専門性に立脚して地球規模の課題解決に取り組む自立した研究者を養成するため、総合地球環境学を構成する学問領域に蓄積された知見と方法論を修得するための教育課程として、先端的な研究環境に基づく授業科目群や教育プログラムを展開し、少人数教育の優位性を活かした研究指導を実践します。

》教育課程 博士後期課程

》学 位 博士(学術)・博士(理学)

》想定される修了生の進路

- 大学等高等教育機関において環境学系の教育・研究に従事する教員。
- 企業・官公庁・国公立研究所・地方自治体・国際機関・NGO等の環境関連分野の技術者・研究者・職員。
- 博物館等における研究者・学芸員。

総合地球環境学研究所

- 〒603-8047 京都府京都市北区上賀茂本山457番地4
- <https://www.chikyu.ac.jp/>





極域科学コース

Polar Science

国立極地研究所

National Institute of Polar Research

情報・システム研究機構

Research Organization of Information and Systems

極域科学コースは、宇宙惑星科学、太陽地球系物理学、大気・海洋・雪氷科学、固体地球科学、生命科学を基礎として、南北両極や高山等の極域における自然現象や物象を支配する普遍的な原理・法則の探究、地球環境変動や地球惑星システムに果たす極域の役割、および極域の地史・自然史の解明を目標に、高度な研究能力をもつ優れた研究者の養成を目的とします。

≫ 教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

≫ 学 位 博士(理学)・博士(学術)

≫ 修了生の進路

- 大学、国立研究所、企業等の地球惑星科学分野やその他理工学系の研究者・技術者



南極のオーロラ
(撮影 極域科学専攻修了 鈴木秀彦)



極観測船「しらせ」から撮影
(撮影 極域科学専攻 高橋啓伍)



南極のペンギン
(撮影 極域科学専攻修了 川又基人)

≫ コース長

平 譯 享

極域科学コースは、南北両極域の自然現象を中心に、全球的規模の環境をも視野に入れた教育・研究を行い、高度の研究能力を具備し、特に「フィールドサイエンティスト」としての力量をもつ優れた研究者を養成します。新しい時代の極域科学に挑戦する、意欲に満ちた学生を歓迎します。



国立極地研究所

- 〒190-8518
東京都立川市緑町10-3
- <https://www.nipr.ac.jp/>



基礎生物学コース

Basic Biology

基礎生物学研究所

National Institutes for Basic Biology

自然科学研究機構

National Institutes of Natural Sciences

基礎生物学コースでは、生物の特徴である共通性と多様性について、普遍的な仕組みとそれを維持する機構、および多様性を生み出す変化の仕組みについて調べています。この分野において研究者として自立して研究活動を行うために必要な高度の研究能力、およびその基礎となる豊かな学識を養うことにより、より基本的で重要な問題を発掘し、その解決に挑む研究者の養成を行うことを目的とします。

≫ 教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

≫ 学 位 博士(理学)・博士(学術)

≫ 修了生の進路

- 大学・研究所等における生命科学関連分野の教員・研究員、生命科学・化学・製薬・医療関連等の企業における研究・開発担当者



研究対象の様々なモデル生物、および新規モデル生物



研究活動の一コマ



研究活動の一コマ



基礎生物学研究所での学位授与式



基礎生物学研究所 明大寺地区



基礎生物学研究所 山手地区

≫ コース長

新美 輝幸

基礎生物学コースでは、様々な生物の特性を活かし、最先端技術を駆使して革新的な生物学にチャレンジしています。私たちは、学生の皆さんが独自の問題発見・解決能力を磨き、未来の生物学研究をリードできる研究者としての素質を培っていただくことを目指しています。切磋琢磨し合いながら、未踏の領域へ果敢に挑戦しましょう。

基礎生物学研究所

- 〒444-8585 愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38
- <https://www.nibb.ac.jp/>





生理科学コース

Physiological Sciences

生理学研究所

National Institute for Physiological Sciences

自然科学研究機構

National Institutes of Natural Sciences

生理科学コースでは、生体のはたらく仕組みを解き明かすことを目的として、生体の基本構造である分子レベルから細胞レベル、さらにシステムとして構成される個体レベルに至るまで、生体機能を統合的に研究するための教育・研究指導を行っています。生理学・脳神経科学を中心とした医学・生命科学の分野で活躍する研究者を養成しています。

≫ 教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

≫ 学位 博士(学術)・博士(理学)・博士(脳科学)・
博士(医学)

≫ 修了生の進路

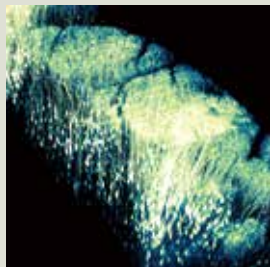
● 大学等の学術研究機関、生命科学関連企業など



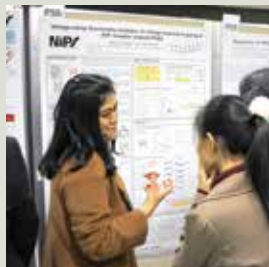
先端機器を利用できる研究環境



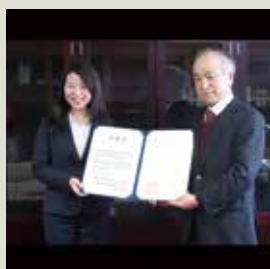
少人数による丁寧な研究指導



生きたままの脳神経細胞の
三次元イメージング



国際研究集会での成果発表と議論



学位授与式の一幕



ヒトの脳の核磁気共鳴イメージング

≫ コース長

古瀬 幹夫

生理科学コースでは、脳と神経、脳と相互に関連する器官のはたらきを中心として、特にヒトの体のはたらきやその仕組みの理解につながる研究を推進しています。私たちの体の仕組みを研究することは、健康の維持、病態の理解にも直結します。生命科学の中でもヒトに関心をもつ学生のみならず、優れた研究環境がある生理科学コースと一緒に研究しませんか。



生理学研究所

● 〒444-8585
愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38
● <https://www.nips.ac.jp/>



遺伝学コース

Genetics

国立遺伝学研究所

National Institute of Genetics

情報・システム研究機構

Research Organization of Information and Systems

遺伝学を根幹とする生命科学の分野の発展に、自立した研究者として貢献する能力を養成します。複数教員による徹底した研究指導により、本質的に新しくかつ高度な研究成果を生み出す専門性に加え、生命科学分野を俯瞰する深い洞察力と知識、研究の将来を展望する豊かな構想力、科学を英語で理解・議論・表現する能力、研究者としての高い倫理性を備えた人材を育成します。

≫ 教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

≫ 学 位 博士(理学)・博士(学術)

≫ 修了生の進路

- 研究職(国内外の大学、研究所、企業)、技術職(IT、知財)、出版関係など。



先端技術を提供する研究施設を利用することが可能です



ディスカッションを通して「考える力」や「討論する力」の育成を目指します



好きなだけ研究に没頭できます



ポスター発表の場で所内のあらゆる教員や研究者と議論する機会があります



多岐分野にわたる国内外の研究者によるセミナーが頻りに開催されています

≫ コース長

岩里 琢治

遺伝学コースに入学した学生は、国立遺伝学研究所(遺伝研)の構成員として遺伝研の優れた研究環境を活用して研究することができます。遺伝研は、学生数と比べて教員数が多い特性を生かして、研究所全体で一人一人の学生を丁寧に育てています。大学院生自身が指導教員以外の教授・准教授から数名のプログレス委員を選び研究に関するアドバイスを受けられる「プログレス制度」は、大学院生が所属研究室の枠を超えて、多様な考え方、幅広い最先端の知識・技術を学ぶために役立っています。遺伝研で研究者としての基礎トレーニングを受けた卒業生は、アカデミア(大学・研究所等)だけでなく、国内外の幅広い分野で活躍しています。



国立遺伝学研究所

- 〒411-8540 静岡県三島市谷田1111
- <https://www.nig.ac.jp/nig/ja/>



統合進化科学コース

Integrative Evolutionary Science

統合進化科学研究センター

Research Center for Integrative Evolutionary Science

先端
学術
院

新しい生命観で見る未来

生物進化学分野もしくは科学と社会分野のいずれかで高度な専門性を持って卓越した研究を自立的に行う、もしくは社会に貢献する人物を養成することを目的とします。そのために大学院生は国際的に通用する研究能力および研究発表と討論の技術を取得するための科目、および専門性を身につけるための科目を履修します。併せて、科学研究について広い視野を持ち科学と社会の関係を理解し研究倫理を身につけた人物を養成することを目的とした講義を開講しています。

≫ 教育課程 5年一貫制博士課程・博士後期課程

≫ 学 位 博士(理学)・博士(学術)

≫ 修了生の進路

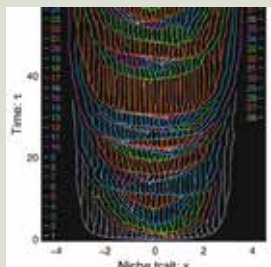
● 大学、研究所、民間企業、NGO、行政における生命科学分野（進化生物学、分子生物学、遺伝学、生態学、医学等）の研究者、或いは科学と社会分野（科学史、科学哲学、科学技術社会論、生命倫理等）の研究者、および科学コミュニケーター等。



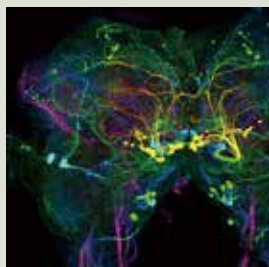
総研大で幼生から育てたミドリイシ属サンゴ2種



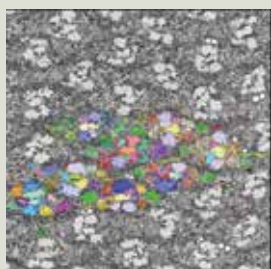
ダナムバレイ(マレーシア)の野生ボルネオオランウータン



適応放散と絶滅の進化シミュレーション:なぜ「生きた化石」は存在する?



コオロギ脳に存在するオクトパミン作動性神経細胞群



アゲハ視覚中枢の電子顕微鏡写真



ゲノム配列を決定したニホンオオカミの頭骨(写真:石黒直隆博士提供)

≫ コース長

沓掛 展之

私たちが研究する原動力は何でしょうか。深く知りたいから。興味があるから。不思議に感じるから。未解明の問題を解決したいから。大発見をしたいから。原動力は人それぞれだと思います。それがどのようなものであれ、研究が好き、という点は共通していると思います。統合進化科学コースは、そんな気持ちを持つ学生のためのコースです。進化、科学と社会が好きで一緒に研究することを楽しみにしています。



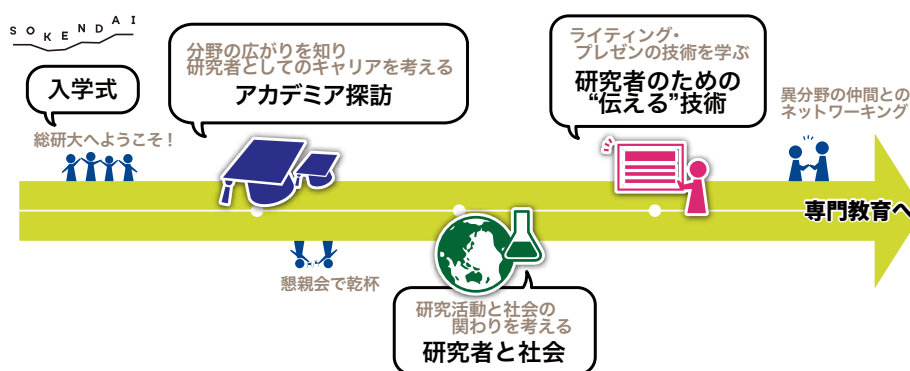
統合進化科学研究センター

- 〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)
- <https://rcies.soken.ac.jp/>

▶ 総研大の教育プログラム

フレッシュマンコース

フレッシュマンコースは、主に新入生を対象とした集中講義です。本コースは、研究者として身につけるべき基礎的な知識やリテラシーを習得し、異分野交流を通じて学問の広がりを知ることを目的とした、総研大独自の全学プログラムです。講義の一部は、葉山キャンパスに全員が集う合宿形式で行います。「アカデミア探訪」、「研究者と社会」、「研究者のための“伝える”技術」の3つのセッションで構成されます。



- 2022年度(前学期・日本語コース)
期 日：2022年4月5日(火)～4月8日(金)
- 2022年度(後学期・英語コース)
期 日：2022年10月4日(火)～10月7日(金)
- 2023年度(前学期・日本語コース)
期 日：2023年4月4日(火)～4月7日(金)
- 2023年度(後学期・英語コース) (予定)
期 日：2023年10月10日(火)～10月13日(金)

SOKENDAI 特別研究員

「SOKENDAI 特別研究員制度」は、基礎研究・学術研究の将来を担う人材を育成するため、下記の2つのカテゴリーにおいて、特に優秀な学生をSOKENDAI 特別研究員として採用し、博士後期課程相当の3年間に亘り生活費相当額及び研究費を支給するとともに、学位取得後のキャリアパスの形成を支援する制度です。

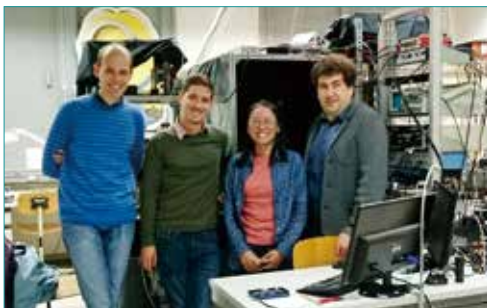
- 分野型**：情報・AI 分野及び大学共同利用機関等が保有する最先端の研究施設を利用した「大規模先端科学」分野の研究を行う学生を支援するもの。
- 挑戦型**：既存の研究分野や研究科・専攻等の組織の枠にとらわれない独創的・挑戦的な研究を主体的に行う学生を支援するもの。

採用実績 (2022年度)

分野型	24名 (情報・AI 分野：12名、大規模先端科学分野：12名)
挑戦型	15名

SOKENDAI研究派遣プログラム

本事業は、本学の教育理念である「高い専門性」「広い視野」「国際的な通用性」を持つ研究者人材の育成を推進するため、海外での短期の研究活動や、将来のキャリア構築につながる国内外での長期の共同研究等に主体的に取り組む本学学生に対して必要な経費を支援することを目的としています。



2022年度

区分1(海外短期) 派遣学生数：11名

区分2(海外長期) 派遣学生数：6名

区分3(国内長期) 派遣学生数：5名

SOKENDAI研究論文掲載費等助成

本学に所属する学生の研究活動の成果である研究論文の掲載について、助成上限額の範囲において、投稿・掲載等に必要な経費の全額又は一部支援を実施しています。2022年度は24件の助成を行いました。

国際共同学位プログラムについて

本学では、海外の研究環境を活用して学生の研究力を培い、学位論文研究の幅を広げるとともに、若手人材の国際流動性を高めることを目的として、海外の高等教育機関と協定を締結し、一人の学生に対して双方の機関の教員が共同で学位論文指導を行う「国際共同学位プログラム」を推進しています。

本学と国際共同学位プログラムに関する協定を締結している 海外の高等教育機関

国名	機関名
タイ	ヴィダヤシリメディー科学技術大学院大学
ジョージア	ジョージア技術大学
フランス	エコール・サントラル・ナント
フランス	パリ・サクレー大学
フランス	ソルボンヌ大学
イタリア	ポローニャ大学
中国	西南交通大学



パリの学生寮の風景



合同学位審査の様子



フランスでの研究会の様子

総研大文化フォーラム

2022年10月1日 対面・オンラインのハイブリッド開催

本フォーラムは総研大唯一の文系研究科である文化科学研究科が主催する公開の学術交流会であり、「文化」を共通の切り口として、さまざまな専門分野を持つ学内外の教員と学生の学際的な交流の機会を提供しています。

学術的な研究発表の場としても機能することから、本学学生の研究活動、成果そのものや、研究発表スキルを指導する教育的機能をも有し、文理に開かれた学術交流の場となっています。

また、学生が事業の企画運営に参画することにより、教員と学生企画委員の協働による事業運営を通じて、学生の企画力を活かしながら、事業運営のマネジメントにおいて教員が指導助言等のサポートを行うことにより、自立した研究者養成に繋がっていきます。



生命科学リトリート

2022年12月20日～21日 オンライン及び現地開催

生命科学リトリートは、総研大の生物学を主とする専攻の教員と学生が一堂に会し学術的交流を深めることで、生物学をより大きな視点で捉えこれからの生物学の発展に貢献できる人材の教育を目的としています。会議を英語で行うことで、国際通用性の向上を図り、学生委員の企画と進行のもと、学生の研究発表（口頭、ポスター）と意見交換会を行っています。学生委員はプログラムの企画立案をすることで企画力を養い、また学生の研究発表の練習の場としても機能することが期待されています。

2022年度は新型コロナ感染拡大防止のため、オンラインと現地開催のハイブリッド形式で2日間にわたり開催し、学生教員合わせてオンライン97名、現地開催70名が参加して研究について熱く語り合いました。



▶ 社会へ向けた取組

地域社会へ向けた事業

本学の教育・研究の成果等を広く社会に公開し、地域社会との交流を深めることを目的として、さまざまな講演会・イベント・シンポジウム等を実施しています。

SOKENDAI 社会連携事業

- 高専生による小型加速器製作を主体とした社会連携事業
大谷 将士 助教（加速器科学）
- 小型宇宙線検出器を用いた科学実験教育・アウトリーチ活動「探Q」
三原 智 教授（素粒子原子核）
- 未知への挑戦：若手が語る最先端研究 2022
大石 雅寿 教授（天文科学）
- 研究の最先端を体験する：高校生のための電波天文観測実習
梅本 智文 助教（天文科学）
- 宙のまちで、宇宙を読み解く人々～宇宙から・地上から シーズン3
生田 ちさと 准教授（宇宙科学）
- 次世代研究者育成を目指した地域密着型体験プログラム
芦川 直子 准教授（核融合科学）

2022/11/27

湘南国際村アカデミア講演会 カフェ・インテグラル

ゲノムから見たニホンオオカミとイヌの多様性の起源
寺井 洋平 助教（統合進化科学研究センター）

横高アカデミア

本学は、地域における次世代教育の支援などを目的に、神奈川県立横須賀高等学校の「横高アカデミア」に参加し、講義等を行っています。同校は文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定されています。

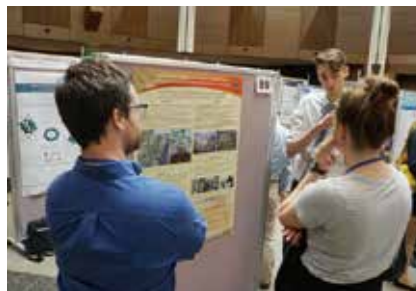
JSPS サマー・プログラム

欧米諸国の博士号取得前後の若手研究者を、本学が(独)日本学術振興会と連携し、全国の大学共同利用機関や大学等の協力のもとに、夏期2ヶ月間受入れるプログラムです。

2022年度は、173名が参加しました。

2022年度プログラム参加者

内訳：アメリカ 14名
カナダ 14名
イギリス 26名
フランス 39名
スウェーデン 51名



2019年度オリエンテーションプログラムの様子



2022年度受入れ先研究機関にて

プレスリリース

2022年度は以下のプレスリリースを行い、各メディアにも取り上げられました。

- ヘビの遺伝子がカエルに飛び移る？
—寄生虫が仲介する遺伝子水平伝播のパンデミック—



- アゲハの色覚神経系の配線



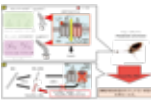
- 遺伝子の運動を支配する物理法則
～細胞内の染色体の動きを表す数式を発見～



- 天の川銀河中心のブラックホールの撮影に初めて成功



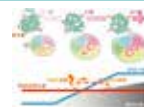
- 匂いを感じられないゴキブリ？
～ゴキブリが匂いを感じる仕組みを解明し、匂いを感じられないゴキブリを作成～



- 多波長観測が解き明かす、遠方宇宙の星形成活動の終焉：
銀河の成長を妨げたのはブラックホールか？



- 細胞が成長する過程におけるDNAの「ゆらぎ」をとらえた！



- 静かなオーロラが地球大気を深くまで電離させる
—最先端の観測とシミュレーションで見た宇宙と大気のつながり—



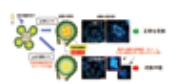
- 安定同位体分析により野生オランウータンの糞から食性を探る



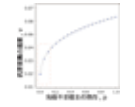
- オタマジャクシは「誰が仲間か」を学ぶ：
学習による血縁者識別の可塑性を発見



- 植物生殖研究における長年の謎を解明！
～カロースによる減数分裂の開始制御～



- 免疫不全宿主の存在がウイルスの免疫逃避を加速する



- 生態系における種を超えた協力関係は絶滅へ向かう逆説的な適応進化をもたらす
～相利系が絶滅に至る新たな脆弱性の発見～



- 授乳・離乳の社会現象を人類進化の視点から解きほぐす



- プラズマの複雑流動を単純計算で再現する
—乱れによる熱の流れを予測する理論研究が大きく進展—



総研大基金

本学で学ぶ学生の支援等を目的に、総研大基金を設けています。詳細については本学ウェブサイトをご覧ください。

総研大基金について：<https://www.soken.ac.jp/donation/kikin/>



総研大ニュースレター

本学で行っている教育研究活動を発信する、総研大ニュースレターを刊行しています。各キャンパスで行われているイベント情報の紹介や報告、プレスリリースされた研究成果、受賞等の情報を掲載し、本学ウェブサイトで開催しています。

総研大ニュースレター：<https://www.soken.ac.jp/outline/pr/publicity/newsletter/>



「進化」を軸にした国内唯一の研究拠点



▶ 統合進化科学研究センター

Research Center for Integrative Evolutionary Science

統合進化科学研究センターは、国内外に開かれた共同研究を通して、広い視野からの生物進化学の研究、および科学活動の俯瞰的研究を推進し、もって人間社会の諸問題の解決をめざす新しい研究分野としての“統合進化科学”を開拓することを目的としています。

研究活動

- ・ 進化を基軸にした生物学の知識体系の構築
- ・ 進化学研究で得られた知見の他分野への応用
- ・ 科学活動の俯瞰的研究
- ・ 学際的知見を基盤とした社会問題解決への取り組み

その他の活動

- ・ 大学院教育、研究者育成
- ・ 共同研究
- ・ アウトリーチ

<https://rcies.soken.ac.jp/index.html>

「統合進化科学研究センター」は、「進化」を軸にした国内唯一の研究拠点として国内外の研究機関と連携し、「統合進化科学」という新たな学術領域の創出を目指します。

総研大の本部のある葉山キャンパスでは、これまで先導科学研究科において「進化」を軸とした教育研究を行ってきました。「進化」というと、生物の進化が思い起こされますが、技術も文化も社会も、進化します。

生物 38 億年の歴史の中で、生き物のシステムがどのように作られ変遷していったのか、また、人間の諸活動(社会、心理、言語、文化など)がどのように変化していったのか、さらには、人新世における地球規模の諸問題がどのように進行し、どのような解決策がありえるのか、といったことも、進化という視点で俯瞰的に考えることができます。

2022年4月に葉山に設立された統合進化科学研究センターでは、上述のように「進化」という概念をとらえなおし、生物学の知識体系の発展のみならず、進化学の知見を人間理解と社会問題解決へ取り込んだ「統合進化科学」という新分野の創出を目指します。



統合進化科学研究センター長
印南秀樹 教授

▶ 教育企画開発センター — The Center for Education Planning and Development

優れた研究者に求められる「高い専門性」、「広い視野」、「国際的な通用性」を兼ね備えた人材の育成が本学の目標です。そのためには各コースにおける専門教育に加えて、研究者としての素養を高めるための全学教育も欠かせません。

本センターは、全学教育の実施・支援や、本学の教育に関する調査分析等を通して、本学が理念として掲げる研究者人材の育成に貢献します。

教育開発部門

●全学教育の推進

- ・全学教育科目、セミナーの企画・実施
 - フレッシュマンコースの実施
 - CEDセミナーの企画・実施
- ・全学教育事業の実施支援
 - 大学共同利用教育の実施支援
 - 国際共同学位プログラムの実施支援

●教育・研究指導の質向上

- ・FD研修の企画・実施
- ・教育に関する教員からの相談対応

●学生のニーズに即した支援

- ・学生の学習・研究活動・就職活動・ネットワークに関する支援
- ・CEDオンラインミートアップの企画・実施

企画 IR 部門

- ・教学データの整備・分析、学生アンケート実施等による教育効果の分析
- ・論文データベース及び研究力分析ツールを利用した研究パフォーマンス分析
- ・SD研修の企画・実施

人材養成部門

- ・データ駆動型研究を推進できる「データサイエンティスト型(DS型)研究者人材」の養成

▶ 学術情報基盤センター — The Center for Academic Information Services

学術情報基盤センターは、本学の学術情報基盤に関する一元管理を行うことにより、学術情報の利用と発信の円滑化に必要な活動を行うと共に、情報基盤の整備充実を進め、全学の教育研究活動等を支援することによって、最先端の教育研究の進展に寄与するため、設立されました。

情報基盤整備推進部

情報基盤整備推進部は、本学の情報環境を整備し各種情報サービスを提供するとともに、情報メディアの利用促進を支援する学内拠点施設です。本学を構成する基盤機関との連携のもと全学的な情報環境を構築するとともに、葉山本部等に設置された基幹情報ネットワークおよび情報システムの管理・運用を行っています。

お問い合わせ

学術情報基盤事務室情報係

TEL : 046-858-1587、1540 FAX : 046-858-1633 E-mail : istc.jimu@ml.soken.ac.jp

本部図書館

本部図書館は、本学が目指す高度な教育研究の展開と先導的学問分野の開拓に資するため、多様な学術資料の収集・整理・公開を行っています。葉山キャンパスの教員・学生は24時間利用可能となっており、各コースに共通する基本的図書および先導的・学際的研究分野に関連する専門図書・雑誌を収集・配架しており、館内設置機器による映像音響資料の利用も可能となっています。そのほか、本学が授与した博士の学位論文、本学が出版した図書、雑誌、葉山キャンパスの教員・学生が発表した学術論文等がインターネットを通じて無料で閲覧できる機関リポジトリ、本館が所蔵する図書・雑誌のOPAC（オンライン所蔵目録）なども提供しています。これらの資料、データは、本学の教員・学生が利用できるだけでなく、近隣住民など一般の方にも開放されており、研究資料の収集や学習スペースとしても有効に活用されています。また、神奈川県立図書館の窓口の機能も有しており、神奈川県立図書館所蔵の図書の教職員及び周辺市民への貸出しを行っています（KL-NETサービス）。更に2015年度より国立国会図書館の窓口として、国立国会図書館が所蔵するデジタル資料を閲覧できるサービスも開始しました。



図書館で利用可能な学術情報資料数

図書：(和)約22,800冊
(洋)約24,600冊
雑誌：(和)約140誌
(洋)約330誌
電子ブック：約153,900冊
電子ジャーナル：約5,520誌
機関リポジトリ：約5,300件

2023.4.1 現在

附属図書館

附属図書館は、大学本部に置く図書館(本部図書館)と機構等法人及び基盤機関が設置する図書館及び図書室(基盤図書館等)から構成されています。附属図書館は、電子資料を収集、整理及び蓄積するとともに、本部図書館及び基盤図書館等との緊密な連係及び協力の下に、学術情報利用の円滑化に必要な活動を行うことによって、本学の教育研究活動を推進することを目的とし、全国に分散している基盤機関の教員・学生が共通に使えるよう、電子ジャーナル及び電子ブック、世界最大級の書誌・引用文献データベース「Scopus」を導入し、利用に供しています。

お問い合わせ 学術情報基盤事務室図書係
TEL：046-858-1528、1540 FAX：046-858-1607 E-mail：lib@ml.soken.ac.jp

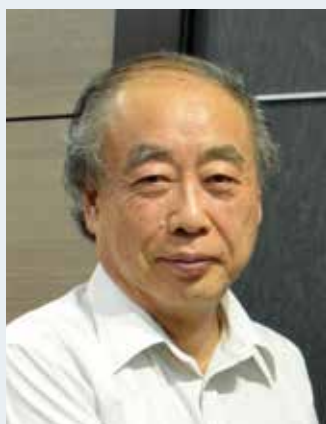
総研大全学で利用できる電子ジャーナル 🔍

BioOne/JSTOR/Science Direct/Springer-LINK/Wiley-Blackwell/GeoScienceWorld/Scopus(書誌・引用DB・情報検索サービス)

※上記以外に葉山キャンパス内向けの電子ジャーナルも提供しています。 <http://www.lib.soken.ac.jp>

— 本学のノーベル賞受賞者 —

高エネルギー加速器科学研究科 名誉教授



小林 誠

総合研究大学院大学名誉教授／
高エネルギー加速器研究機構
特別荣誉教授

2008年
「CP対称性の破れの起源の発見」により
ノーベル物理学賞 受賞

1999年4月～2004年3月：数物科学研究科 教授
2004年4月～2006年3月：高エネルギー加速器科学研究科 教授
2003年4月～2004年3月：数物科学研究科 素粒子原子核専攻長
2004年4月～2006年3月：高エネルギー加速器科学研究科
素粒子原子核専攻長

2008年：文化勲章受章

生命科学研究所 名誉教授



大隅 良典

総合研究大学院大学名誉教授／
基礎生物学研究所名誉教授

2016年
「オートファジーの仕組みの解明」により
ノーベル生理学・医学賞 受賞

1996年10月～2009年3月：生命科学研究所 教授
2008年 4月～2009年3月：生命科学研究所長
2006年：日本学士院賞受賞
2016年：文化勲章受章

受賞者

■勲章・褒章（2015年以降）

氏名	研究科・専攻	受賞年
山田 作衛 名誉教授	高エネルギー加速器科学研究科・素粒子原子核専攻	2022 瑞宝中綬章
家 正則 名誉教授	数物科学研究科・天文科学専攻	2022 瑞宝重光章
蟻川 謙太郎 教授	統合進化科学研究センター	2022 紫綬褒章
長谷部 光泰 教授	生命科学研究所・基礎生物学専攻	2022 紫綬褒章
大森 賢治 教授	物理科学研究科・機能分子科学専攻	2021 紫綬褒章
小松 和彦 名誉教授	文化科学研究科・国際日本研究専攻	2020 瑞宝重光章
永嶺 謙忠 名誉教授	高エネルギー加速器科学研究科	2020 瑞宝中綬章
小平 桂一 名誉教授（元学長）	数物科学研究科・天文科学専攻	2017 瑞宝重光章
川合 眞紀 教授	物理科学研究科・機能分子科学専攻	2017 紫綬褒章
大隅 良典 名誉教授	生命科学研究所・基礎生物学専攻	2016 文化勲章
太田 朋子 名誉教授	生命科学研究所・遺伝学専攻	2016 文化勲章
末松 安晴 名誉教授	複合科学研究科・情報学専攻	2015 文化勲章

■文化功労者（2015年以降）

氏名	研究科・専攻	受賞年・受賞分野
石毛 直道 名誉教授	国立民族学博物館	2021 文化人類学
川合 眞紀 所長	分子科学研究所	2021 表面科学
鈴木 厚人 名誉教授	高エネルギー加速器科学研究科	2021 素粒子物理学
堀田 凱樹 名誉教授	生命科学研究所・遺伝学専攻	2020 行動遺伝学・生物物理学・神経遺伝学
猪木 武徳 名誉教授	文化科学研究科・国際日本研究専攻	2019 経済学
小松 和彦 教授	文化科学研究科・国際日本研究専攻	2016 民俗学
大隅 良典 名誉教授	生命科学研究所・基礎生物学専攻	2015 細胞生物学

■日本学士院賞（2015年以降）

氏名	研究科・専攻	受賞年	受賞理由
川合 眞紀 教授	物理科学研究科・機能分子科学専攻	2020	単一分子分光を用いた固体表面上での化学反応の研究
喜連川 優 教授	複合科学研究科・情報学専攻	2020	大規模高性能データベースシステムの理論と応用に関する先駆的研究
常田 佐久 教授	物理科学研究科・天文科学専攻	2019	太陽観測衛星による太陽電磁流体現象の研究
永嶺 謙忠 名誉教授	高エネルギー加速器科学研究科・物質構造科学専攻	2019	ミュオンラジオグラフィの開拓と大規模構造体の非破壊的研究
高崎 史彦 名誉教授	高エネルギー加速器科学研究科・素粒子原子核専攻	2017	B中間子系におけるCP対称性の破れの研究

■日本学士院学術奨励賞（2015年以降）

氏名	研究科・専攻	受賞年	受賞理由
鯉淵 道紘 准教授	複合科学研究科・情報学専攻	2020	並列計算機システムの相互結合網へのランダム性導入に関する先駆的研究
石崎 章仁 教授	物理科学研究科・構造分子科学専攻	2019	実時間量子散逸系理論の構築とその光合成初期過程解明への応用

■日本学術振興会 育志賞（2015年以降）

氏名	研究科・専攻	受賞年	研究テーマ
坂本 貴洋	先導科学研究科・生命共生体進化学専攻	2022	自然選択の理論集団遺伝学
飯屋園 志帆	先導科学研究科・生命共生体進化学専攻	2017	ミドリイシ属サンゴの蛍光タンパク質の遺伝子基盤と役割の解明
北村 大地	複合科学研究科・情報学専攻	2016	非負値行列因子音源モデルに基づく音楽信号の多チャネルブラインド音源分離

SOKENDAI 賞

SOKENDAI 賞は、本学の理念と目的に照らして、特段に顕彰するに相応しい研究活動を行い、その成果を優れた学位論文にまとめて課程を修了し、学位を取得する学生を表彰するものとして、2018年度に創設しました。

■第9回 SOKENDAI 賞 受賞者一覧 : 2022年9月28日（水）

氏名	研究科・専攻	学位論文題目
周（鳥居） 諭来	物理科学研究科 機能分子科学専攻	光ピンセット配列中の冷却リユードベリ原子を用いた超高速量子ダイナミクスの研究
ATIS YOSPRAKOB	高エネルギー加速器科学研究科 素粒子原子核専攻	符号問題の解決に向けて～複素ランジュバン法、シンプル法、テンソルネットワーク法
Li Haoyu	複合科学研究科 情報学専攻	雑音抑圧と明瞭性向上のためのニューラルネットワークによる音声強調の改善について

■第10回 SOKENDAI 賞 受賞者一覧 : 2023年3月24日（金）

氏名	研究科・専攻	学位論文題目
森 崇人	高エネルギー加速器科学研究科 素粒子原子核専攻	Entanglement structure in quantum many-body systems, field theories, and holography
坂本 貴洋	先導科学研究科 生命共生体進化学専攻	自然選択の理論集団遺伝学

教職員数

2023年5月1日現在

区 分	役 員	教 授	准教授	講 師	助 教	その他	事務職員	計
学 長	1							1
理 事	2							2
監 事	2							2
副学長	(1)							(1)
先端大学院								
人類文化研究		26	21					47
国際日本研究		18	2					20
日本歴史研究		19	10					29
日本文学研究		12	9					21
日本語言語科学		11	7					18
情報学		31	16		10			57
統計科学		21	20		6			47
素粒子原子核		31	37	20	15			103
加速器科学		49	46	17	55			167
天文学		30	36	4	45			115
核融合科学		15	24		23			62
宇宙科学		22	40		14			76
分子科学		15	10		21			46
物質構造科学		19	22	6	19			65
総合地球環境学		9	7		1			17
極域科学		12	17		16			45
基礎生物学		16	14		36			66
生理科学		17	14		21			52
遺伝学		20	11		21			52
統合進化科学		(6)	(7)	(3)	(2)			(18)
統合進化科学研究センター		6 (1)	7	3	2			18 (1)
教育企画開発センター	(1)		3	1				4 (1)
学術情報基盤センター	(1)						(1)	(2)
事務局等							41	41
合 計	5 (3)	399 (7)	373 (7)	51 (3)	305 (2)	0	41 (1)	1174 (23)

※()については、他部署との兼務。[外数]

教職員一覧・検索

Webサイトから教員一覧をご覧いただけます。

教員一覧・検索サイト：<https://www.soken.ac.jp/faculty-directory/>

学生数

2023年5月1日現在

	1年次		2年次		3年次 (1年次**)		4年次 (2年次**)		5年次 (3年次**)		計							
	女子	留学生	女子	留学生	女子	留学生	女子	留学生	女子	留学生	女子	留学生						
先端学術院	45	17	2	0	0	0	34	12	6	0	0	0	79	29	8			
人類文化研究	/	/	/	/	/	/	4	2					4	2	0			
国際日本研究	/	/	/	/	/	/	3	3	2				3	3	2			
日本歴史研究	/	/	/	/	/	/	1	1					1	1	0			
日本文学研究	/	/	/	/	/	/	2	1					2	1	0			
日本語言語科学	/	/	/	/	/	/	4	2	3				4	2	3			
情報学	8						5		1				13	0	1			
統計科学	1						6	1					7	1	0			
素粒子原子核	8	4											8	4	0			
加速器科学	1	1					1						2	1	0			
天文科学	4	1					1						5	1	0			
核融合科学	2												2	0	0			
宇宙科学	3	1					1						4	1	0			
分子科学	3						2	1					5	1	0			
物質構造科学	/	/	/	/	/	/							0	0	0			
総合地球環境学	/	/	/	/	/	/							0	0	0			
極域科学	2	2	1				1						3	2	1			
基礎生物学	3	1					2	1					5	2	0			
生理科学	2	1											2	1	0			
遺伝学	4	3	1										4	3	1			
統合進化科学	4	3					1						5	3	0			
文化科学研究科 ※1	/	/	/	/	/	/	0	0	0	7	5	4	42	21	10	49	26	14
地域文化学専攻	/	/	/	/	/	/				1	1	1	11	6	4	12	7	5
比較文化学専攻	/	/	/	/	/	/				1	1		8	4	2	9	5	2
国際日本研究専攻	/	/	/	/	/	/				3	2	3	9	4	4	12	6	7
日本歴史研究専攻	/	/	/	/	/	/				1	1		10	4		11	5	0
日本文学研究専攻	/	/	/	/	/	/				1			4	3		5	3	0
物理学研究科 ※1	0	0	0	17	3	1	16	1	5	23	3	5	30	6	8	86	13	19
構造分子科学専攻				2	1		1			5	2	1	3	1	2	11	4	3
機能分子科学専攻				3						2		1	6	1	3	11	1	4
天文科学専攻				5	1		6	1	2	6			9	2	1	26	4	3
核融合科学専攻				3		1	7		3	6		3	4		2	20	0	9
宇宙科学専攻				4	1		2			4	1		8	2		18	4	0
高エネルギー加速器科学研究科 ※1	3	0	3	13	3	5	16	2	4	11	3	4	16	2	5	59	10	21
加速器科学専攻	1		1	3	2	2	2	1	1	3	1		3		1	12	4	5
物質構造科学専攻				3	1	1				2		1	3	1	2	8	2	4
素粒子原子核専攻	2		2	7		2	14	1	3	6	2	3	10	1	2	39	4	12
複合科学研究科 ※1	6	1	4	15	1	4	25	1	9	24	6	11	51	11	13	121	20	41
統計科学専攻				1			8			4			17	3	1	30	3	1
極域科学専攻				3			1			1			7	2		12	2	0
情報学専攻	6	1	4	11	1	4	16	1	9	19	6	11	27	6	12	79	15	40
生命科学研究科 ※1	4	3	3	16	6	8	13	6	6	21	6	9	36	13	10	90	34	36
遺伝学専攻	2	1	2	10	4	6	9	5	6	9	2	5	10	3	5	40	15	24
基礎生物学専攻	1	1		1			1			10	3	3	13	6	2	26	10	5
生理科学専攻	1	1	1	5	2	2	3	1		2	1	1	13	4	3	24	9	7
先導科学研究科 ※1	0	0	0	4	2	0	3	2	0	3	1	0	9	6	1	19	11	1
生命共生体進化学専攻				4	2		3	2		3	1		9	6	1	19	11	1
合計	58	21	12	65	15	18	107	24	30	89	24	33	184	59	47	503	143	140

※1 2023年3月31日 募集停止
 ※2 女子・外国人留学生はともに内数。
 ** 博士後期課程の年次

入学者数

2023 年度（4 月入学）入学者選抜実施状況

2023 年 4 月 1 日現在

先端学術院／ コース	入学定員 (募集人員)		入学者選抜実施状況				入学者		入学者の内訳							
			志願者		合格者				性別				留学生		社会人	
	5 年	後期	5 年	後期	5 年	後期	5 年	後期	男		女		5 年	後期	5 年	後期
	5 年	後期	5 年	後期	5 年	後期	5 年	後期	5 年	後期	5 年	後期	5 年	後期	5 年	後期
先端学術院	58	62	90	69	52	35	45	34	28	22	17	12	2	6	3	15
人類文化科学	(-)	(4)	/	6	/	4	/	4	/	2	/	2	/		/	2
国際日本研究	(-)	(3)	/	9	/	3	/	3	/		/	3	/	2	/	3
日本歴史研究	(-)	(3)	/	4	/	1	/	1	/		/	1	/		/	1
日本文学研究	(-)	(2)	/	4	/	2	/	2	/	1	/	1	/		/	1
日本語言語科学	(-)	(3)	/	10	/	4	/	4	/	2	/	2	/	3	/	
情報学	(8)	(12)	14	5	9	5	8	5	8	5				1	3	2
統計科学	(2)	(6)	2	12	1	6	1	6	1	5		1				4
素粒子原子核	(6)	(1)	19	3	9		8		4		4					
加速器科学	(2)	(1)	2	1	2	1	1	1		1	1					
天文科学	(5)	(1)	16	3	5	1	4	1	3	1	1					
核融合科学	(3)	(2)	3		2		2		2							
宇宙科学	(4)	(3)	3	1	3	1	3	1	2	1	1					1
分子科学	(7)	(5)	4	2	4	2	3	2	3	1		1				1
物質構造科学	(2)	(1)														
総合地球環境学	(-)	(2)	/	2	/		/		/				/		/	
極域科学	(2)	(1)	5	1	3	1	3	1		1	3		1			
基礎生物学	(5)	(3)	7	2	5	2	3	2	2	1	1	1				
生理科学	(3)	(6)	2	1	2		2		1		1					
遺伝学	(6)	(2)	5	1	4	1	4		1		3		1			
総合進化科学	(3)	(1)	8	2	3	1	3	1	1	1	2					

() は募集人員

2023 年度 入学者状況 (出身大学等)

国立大学 44 名

北海道大学	2	福井大学	1
弘前大学	1	豊橋技術科学大学	2
東北大学	4	京都大学	8
山形大学	1	大阪大学	1
筑波大学	3	神戸大学	1
筑波技術大学	1	奈良先端科学技術	
千葉大学	1	大学院大学	1
東京大学	4	岡山大学	1
東京工業大学	1	広島大学	2
お茶の水女子大学	2	山口大学	1
電気通信大学	1	愛媛大学	2
新潟大学	1	九州大学	1
長岡技術科学大学	1		

私立大学 21 名

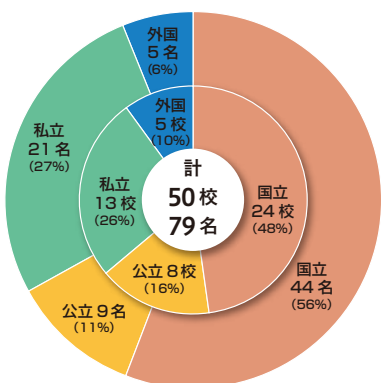
青山学院大学	1	東邦大学	1
桜美林大学	1	南山大学	1
学習院大学	1	日本大学	3
工学院大学	1	放送大学	1
中央大学	1	立命館大学	2
東京電機大学	1	早稲田大学	2
東京理科大学	5		

公立大学 9 名

横浜市立大学	1	大阪府立大学	2
石川県立大学	1	兵庫県立大学	1
福井県立大学	1	広島市立大学	1
京都府立大学	1	沖縄県立芸術大学	1

外国の大学 5 名

東華大学 (中国)	1
韓国科学技術院 (韓国)	1
University of London (イギリス)	1
King's College London (イギリス)	1
Arizona State University (アメリカ)	1

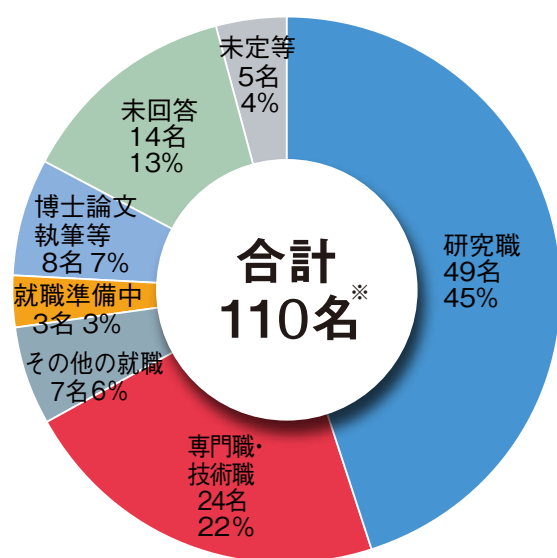


博士の学位授与状況

学位名	1991年度～2017年度 計	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	計
文学	115 [30] (48)	(2)	5 (1)	5 [2] (2)	5 [3] (1)	2 [1] (2)	132 [36] (56)
学術	302 [29] (68)	5 (1)	4 (1)	5 [2] (2)	12 [1] (1)	5 [1]	333 [33] (73)
理学	1268 [62] (96)	45 [3] (2)	35 [3] (1)	47 [3] (2)	33	52 [7] (3)	1480 [78] (104)
工学	138 [6] (39)	6	8 [1]	9 (1)	8 (1)	9 [1]	178 [8] (41)
統計科学	40 [3] (3)	5 [1]	5 [1]	4 [1]	7	9 [1]	70 [7] (3)
情報学	148 [13] (0)	11 [2]	14 [3]	17 [1]	16	19	225 [19] (0)
脳科学					1		1 [0] (0)
医学	11 [0] (0)	3 [2]	1			1 [1]	16 [3] (0)
合計	2022 [143] (254)	75 [8] (5)	72 [8] (3)	87 [9] (7)	82 [4] (3)	97 [12] (5)	2435 [184] (277)

・ () は論文博士で外数。
 ・ [] は単位取得退学後、所定の期間内に申請し学位を取得した者で、内数。

2022年度 課程修了者及び単位取得退学者の進路状況(職種別)



※ 110名内訳
 課程を修了し学位を取得した者：85名
 修了に必要な単位を取得し退学した者：25名

- | | |
|---|--|
| 大学・研究所等 ……………
東京大学
京都大学
東北大学
新潟大学
広島大学
日本女子大学
ノースカロライナ州立大学
アンジェ大学
デュイタン大学
ハノイ大学
ダートマス大学
スクリプス研究所
国土地理院
生命創成探究センター
分子科学研究所
国立天文台
高エネルギー加速器研究機構 (KEK)
物質構造科学研究所
統計数理研究所
National Institute of Informatics
(国立情報学研究所)
国立遺伝学研究所
基礎生物学研究所
生理学研究所
国立研究開発法人情報通信研究機構
理化学研究所
独立行政法人国立高等専門学校機構
大分工業高等専門学校
医療法人望洋会 鯨島病院
佐賀県庁
長崎県教育庁 | 民間企業・公益法人等 ……………
ウシオ電機株式会社
株式会社日本経済新聞社
株式会社レゾナック
株式会社ブレインパッド
株式会社アルプス技研
株式会社日立製作所
トヨタ自動車株式会社
みずほ第一フィナンシャル
テクノロジー株式会社
旭化成株式会社
SMBC 日興証券株式会社
株式会社山本化成
三菱電機株式会社
愛知製鋼株式会社
富士通株式会社
日本電信電話株式会社
株式会社インテージ
株式会社日経 BP
ギガフォトン株式会社
楽天グループ株式会社
グーグル合同会社
合同会社嘉言堂
BENYI
Cornea Technologies Ltd.
一般財団法人東海技術センター
矢崎総業 AI デジタル室
アストロスケール
ウーブン・ブラネット・
ホールディングス
Indeed
Institute for Creative Integration |
|---|--|

DATA

国際交流

2023 年度外国人留学生数

2023年5月1日現在

研究科・専攻 / 先端学術院	1年次			2年次			3年次			4年次			5年次			計			研究生		
	女子	国費		女子	国費		女子	国費		女子	国費		女子	国費		女子	国費		女子	国費	
先端学術院	2	1	1	0	0	0	6	3	0	0	0	0	0	0	0	8	4	1	4	3	2
人類文化科学																0	0	0	1	1	
国際日本研究							2	2								2	2	0			
日本歴史研究																0	0	0			
日本文学研究																0	0	0			
日本語言語科学							3	1								3	1	0			
情報学							1									1	0	0	1	1	1
統計科学																0	0	0			
素粒子原子核																0	0	0	1		1
加速器科学																0	0	0			
天文科学																0	0	0	1	1	
核融合科学																0	0	0			
宇宙科学																0	0	0			
分子科学																0	0	0			
物質構造科学																0	0	0			
総合地球環境学																0	0	0			
極域科学	1	1														1	1	0			
基礎生物学																0	0	0			
生理科学																0	0	0			
遺伝学	1		1													1	0	1			
総合進化科学																0	0	0			
文化科学研究科 ※	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3	0	10	6	0	14	9	0	4	2	1
地域文化学専攻										1	1		4	2		5	3	0			
比較文化学専攻													2	1		2	1	0			
国際日本研究専攻										3	2		4	3		7	5	0	3	2	
日本歴史研究専攻																0	0	0			
日本文学研究専攻																0	0	0	1		1
物理学研究科 ※	0	0	0	1	0	0	5	0	3	5	1	1	8	1	1	19	2	5	1	1	1
構造分子科学専攻										1	1		2		1	3	1	1			
機能分子科学専攻										1			3	1		4	1	0			
天文科学専攻							2		2				1			3	0	2	1	1	1
核融合科学専攻				1			3		1	3		1	2			9	0	2			
宇宙科学専攻																0	0	0			
高エネルギー-加速器科学研究科 ※	3	0	2	5	2	4	4	1	1	4	1	3	5	1	3	21	5	13	0	0	0
加速器科学専攻	1		1	2	1	2	1	1					1		1	5	2	4			
物質構造科学専攻				1	1	1				1		1	2	1	2	4	2	4			
素粒子原子核専攻	2		1	2		1	3		1	3	1	2	2			12	1	5			
複合科学研究科 ※	4	1	3	4	1	2	9	1	2	11	4	5	13	5	4	41	12	16	0	0	0
統計科学専攻													1	1	1	1	1	1			
極域科学専攻																0	0	0			
情報学専攻	4	1	3	4	1	2	9	1	2	11	4	5	12	4	3	40	11	15			
生命科学研究科 ※	3	2	1	8	3	6	6	4	4	9	3	5	10	5	5	36	17	21	0	0	0
遺伝学専攻	2	1	1	6	3	5	6	4	4	5	1	2	5	1	2	24	10	14			
基礎生物学専攻										3	1	2	2	1	1	5	2	3			
生理科学専攻	1	1		2		1				1	1	1	3	3	2	7	5	4			
先端科学研究科 ※	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0
生命共生体進化学専攻													1	1	1	1	1	1			
合計	12	4	7	18	6	12	30	9	10	33	12	14	47	19	14	140	50	57	9	6	4

※2023年3月31日 募集停止

DATA

2023 年度外国人留学生数 国別一覧

2023年5月1日現在

国・地域	1 年次			2 年次			3 年次(1 年次**)			4 年次(2 年次**)			5 年次(3 年次**)			計			研究生		
	女子	国費		女子	国費		女子	国費		女子	国費		女子	国費		女子	国費		女子	国費	
アジア	8	3	4	11	4	7	25	7	6	29	11	12	39	19	12	112	44	41	5	5	1
インド				2	2	2	3	1	2	3	2	1	3		1	11	5	6	1	1	1
インドネシア共和国				1		1	1		1				1	1	1	3	1	3			
スリランカ	1		1				1									2	0	1			
タイ王国	1		1	1		1	1		1	1		1	1			5	0	4			
ネパール王国				1		1										1	0	1			
バングラデシュ人民共和国							1	1	1				2	1	2	3	2	3			
フィリピン共和国										1		1	2	2	2	3	2	3			
ベトナム社会主義共和国	1		1	2	2	2	1		1	5	3	4	3	1	2	12	6	10			
マレーシア										2	2	2				2	2	2			
モンゴル													1			1	0	0			
大韓民国				2			1			1			2			6	0	0			
中華人民共和国	3	2	1	2			14	5		15	4	3	23	14	4	57	25	8	4	4	
中華民国(台湾)	2	1					2			1			1			6	1	0			
アフリカ	1	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	5	1	2	0	0	0
アルジェリア	1		1													1	0	1			
エジプト				1	1											1	1	0			
ガーナ共和国													1			1	0	0			
ナイジェリア				1		1										1	0	1			
南アフリカ共和国													1			1	0	0			
欧州	2	1	1	3	1	3	3	1	2	2	1	1	4	0	2	14	4	9	3	1	3
アイルランド共和国				1		1										1	0	1			
カザフスタン共和国	1		1	2	1	2	2	1	2	2	1	1	1		1	8	3	7			
スペイン王国																0	0	0	1		1
ドイツ連邦	1	1											2		1	3	1	1	1	1	1
フランス共和国						1										1	0	0	1	1	1
ベラルーシ共和国													1			1	0	0			
中近東	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0		0
シリア							1	1	1							1	1	1			
北米・中米	1	0	1	1	0	0	1	0	1	1	0	0	2	0	0	6	0	2	1	0	0
アメリカ合衆国	1		1				1		1							2	0	2			
カナダ				1												1	0	0	1		
メキシコ合衆国										1			2			3	0	0			
南米	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	2	0	0	0
ブラジル				1		1										1	0	1			
ペルー共和国										1		1				1	0	1			
総計	12	4	7	18	6	12	30	9	10	33	12	14	47	19	14	140	50	57	9	6	4

※ 各年次について、4 月入学者とその前年度の 10 月入学者の合計数。女子及び留学生はともに内数。

** 博士後期課程の年次



大学間交流協定

本学では、大学間の学術交流を通じて、大学院における教育・研究活動のより一層の充実をはかるため、国内外の大学と学術交流協定を締結しています。

海外の大学等との交流協定

国・地域	協定機関 / 対応部局	締結日
中国	蘭州大学	2019年11月12日
韓国	科学技術総合大学院大学校	2005年 5月25日
フランス	エコール・サントラル・ナント	2019年11月 8日
フランス	パリ・サクレ大学	2020年 2月28日
ロシア	ノヴォシビルスク大学	2020年 3月12日
ノルウェー	ノルウェー北極大学	2019年11月 7日
イタリア	ボローニャ大学	2020年 7月20日
インドネシア	ガジャ・マダ大学文化学部	2019年12月27日
米国	ハワイ大学マノア校	2018年 2月28日
中国	西南交通大学物理科学与技術学院	2020年 5月20日
タイ	チュラロンコン大学理学部	2010年 4月 1日
タイ	カセサート大学理学部	2011年 3月29日
タイ	ウィタヤシリメディー科学技術大学院大学	2018年 9月 5日
マレーシア	マラヤ大学理学部	2014年 3月24日
ドイツ	イェナ大学固体物理学研究所	2020年 7月17日
ロシア	サンクトペテルブルク工科大学	2019年 1月23日
ジョージア	ジョージア技術大学	2019年 2月13日
韓国	高麗大学医学部	2019年11月18日
韓国	釜山大学校	2022年11月10日
台湾	国立台湾大学	2017年12月28日
台湾	国立陽明交通大学	2023年 3月 7日
ベトナム	ベトナム国立自然科学大学生物学部	2017年 2月 8日
ベトナム	ベトナム国立農業大学動物科学学部	2017年 2月15日
ベトナム	ベトナム社会科学院考古学研究所	2017年 2月20日
パングラデシュ	ジョハンギルナガル大学生物科学部	2018年10月 9日
インド	インド科学教育研究大学ティルパナンタラム校	2020年 3月27日
スロベニア	リュブリャナ大学生物技術学部	2018年 8月28日

国内の大学等との交流協定

協定機関	協定発効年月日
東京工業大学	1995年 4月 1日
お茶の水女子大学	1995年 4月 1日
名古屋大学 医学系研究科	1995年 4月 1日
東京大学 理学系研究科	1998年 4月 1日
東京大学 情報理工学系研究科	1998年 4月 1日
国際基督教大学 アーツ・サイエンス研究科	2000年 4月 1日
京都大学 アジア・アフリカ地域研究研究科	2005年 4月 1日
大阪大学 人間科学研究科	2005年 4月 1日
神戸大学 国際文化学研究所 人間発達環境学研究所	2005年 4月 1日
千葉大学 人文公共学府	2005年 4月 1日
北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科	2009年 4月 1日
名古屋大学 工学研究科	2010年 4月 1日
千葉大学 融合理工学府	2010年 4月 1日
津田塾大学 理学研究科	2015年 4月 1日
九州大学 薬学府	2017年 4月 1日
法政大学 理工学研究科	2018年 4月 1日
大阪大学 工学研究科	2019年 6月 1日
名古屋大学 理学研究科 工学研究科 生命農学研究科 創薬科学研究科	2019年10月 1日
熊本大学 医学教育部	2019年11月29日
滋賀県立大学 人間文化学研究所	2020年 4月 1日
沖縄科学技術大学院大学	2021年10月 1日
関西学院大学 理工学研究科	2022年 4月 1日

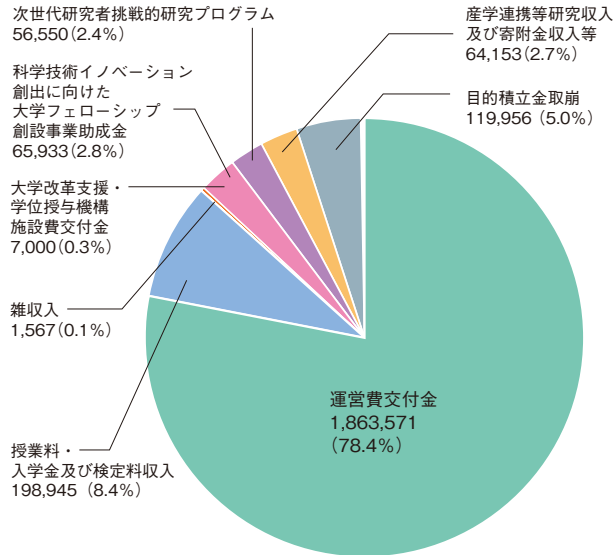
神奈川県内の大学等との交流協定

協定機関	協定発効年月日	
麻布大学	獣医学研究科 環境保健学研究所	2001年1月10日
神奈川大学	法学研究科	
	経済学研究科	
	経営学研究科	
	外国語学研究所	
	理学研究科	
	工学研究科	
神奈川工科大学	歴史民俗資料学研究所	
	人間科学研究科	
関東学院大学	工学研究科	
	文学研究科	
	経済学研究科	
北里大学	法学研究科	
	工学研究科	
	看護学研究科	
	理学研究科	
	医療系研究科	
	看護学研究科	
湘南工科大学	薬学研究科	
	獣医学系研究科	
	海洋生命科学研究所	
専修大学	感染制御科学府	
	工学研究科	
鶴見大学	経済学研究科	
	法学研究科	
桐蔭横浜大学	文学研究科	
	商学研究科	
東海大学	文学研究科	
	政治学研究科	
	経済学研究科	
	法学研究科	
	芸術学研究科	
	体育学研究科	
	理学研究科	
	工学研究科	
	海洋学研究科	
	健康科学研究科	
東京工芸大学	人間環境学研究所	
	工学研究科	
日本大学	生物資源科学研究科	
	獣医学研究科	
横浜市立大学	医学研究科	
	都市社会文化研究科	
	生命ナノシステム科学研究科	
	生命医科学研究科	
横浜国立大学	理工学府	
	環境情報学府	
	教育学研究科	
	国際社会科学府	
東京工業大学	都市イノベーション学府	
	生命理工学院	
明治大学	農学研究科	
	農学研究科	
フェリス学院大学	人文科学研究科	
	国際交流研究科	
情報セキュリティ大学院大学	音楽研究科	2005年4月1日
東京都市大学	情報セキュリティ研究科	2005年4月1日
相模女子大学	環境情報学研究所	2007年4月1日
	栄養科学研究科	2009年4月1日
松蔭大学	社会起業研究科	2021年4月1日
	経営管理研究科	2009年4月1日
青山学院大学	理工学研究科	2010年4月1日
文教大学	情報学研究科	2013年4月1日
神奈川歯科大学	歯学研究科	2014年4月1日
鎌倉女子大学	児童学研究科	2015年4月1日
聖マリアンナ医科大学	医学研究科	
昭和大学	保健医療学研究所	2016年4月1日
女子美術大学	美術研究科	
田園調布学園大学	人間学研究科	2018年4月1日
横浜創英大学	看護学研究科	2019年4月1日

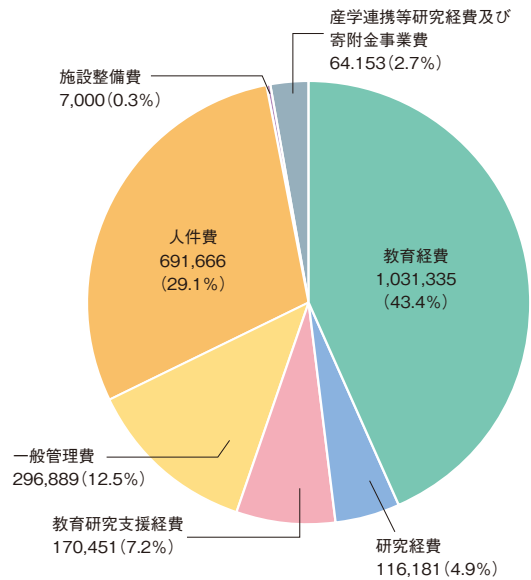
2023 年度収入・支出予算

■収入予算総額 2,377,675

(単位：千円)



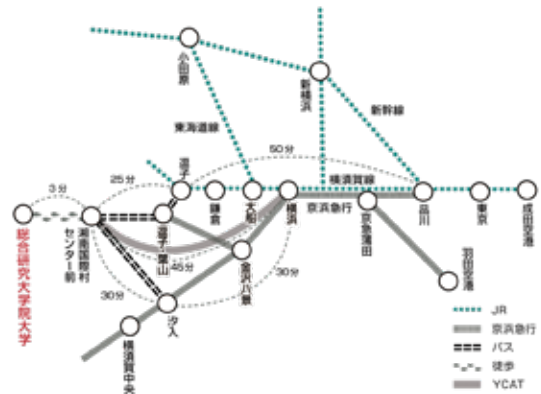
■支出予算総額 2,377,675



ACCESS



葉山キャンパス 〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)
電話 046(858)1500(代表)



DATA



S O K E N D A I

本学は 2018 年の創立 30 周年を機に、ブランドロゴを制定しました。

異なるアルファベットを接続するブランドロゴは、SOKENDAI が日本や世界の研究所をつなぐ教育機関であるという構造を表現しています。アルファベットのひとつひとつは研究所やそこで学ぶ人材の高い専門性や個性を表現し、文字をつないでいきます。この上昇していくライン "Intelligence Connector" は広い視野と世界に開かれた自由な精神を象徴しています。

〒240-0193

神奈川県三浦郡葉山町 湘南国際村

www.soken.ac.jp

S O K E N D A I

The logo for SOKENDAI features the letters S, O, K, E, N, D, A, and I arranged in a slightly wavy line. Below the letters is a solid black line that follows the general contour of the text, starting flat, dipping under 'K', rising under 'E', dipping under 'N', rising under 'D', and ending flat under 'I'.